

慶知紡績所沿革

自創業至十六年四月

二函	架	一冊	一〇類
----	---	----	-----

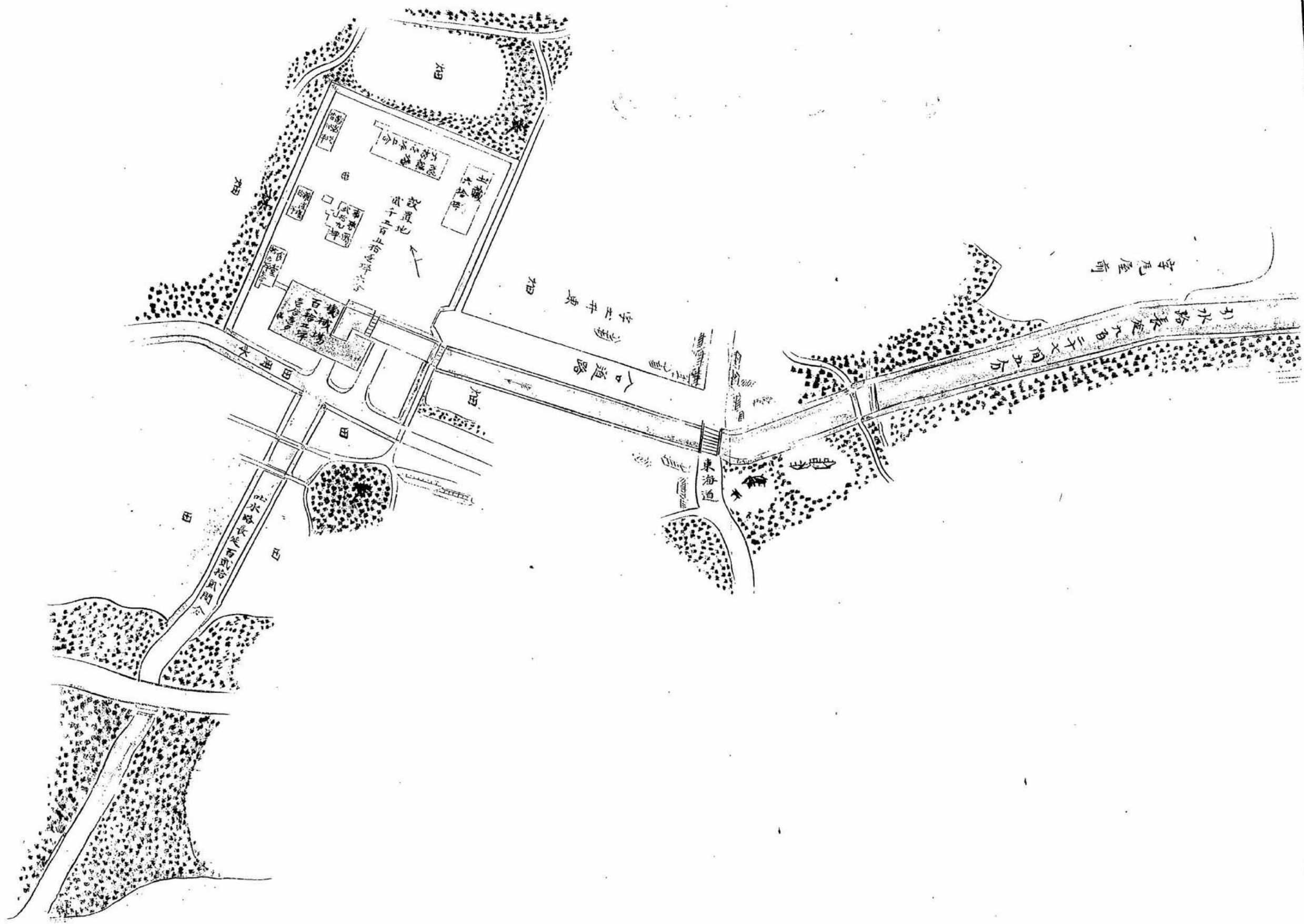
国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	33-5
	① 134

134

愛知紡績所沿革

自創業
至明治十六年四月

愛知紡績所



愛知紡績所沿革

草綿ハ本邦固有ノ産ニシテ上下共ニ欠ク可ラサルノ服
用タリト雖紡績ノ術未其宜ヲ得サルガクメ大ニ綿絲布
ノ輸入ヲ招キ本邦ノ綿業ヲシテ漸次萎靡ヤシハルニ至
ル故ニ紡績所ヲ設立シ其利標ヲ人民ニ示シ以テ綿業ノ
衰頹ヲ挽回スルノ急務ナルヲ以テ明治十一年一月時ノ
内務卿大久保利通上表シテ綿絲紡績機械ヲ購求ヤシ
ヲ請フ其文ノ略ニ曰ク

綿糸ハ人民ノ被服ニ供スヘキ日常欠ク可ラサル要品
タルヲ衆ノ共ニ知ル所ト雖内國ノ草綿年々産額ヲ加
ヘス外國ノ綿糸月々輸入ヲ増ス比年我関ノ調査ヲ見
ルニ一箇年大約九百餘萬圓ノ額ニ上レリ是何ニ由ラ
然ルヤ内國ノ紡績ハ皆人民ノ手業ニ係ラサルヲ手

業ニ限アリテ需要ニ限ナシ自然輸入ヲ仰カサレ得ルニ至ル是レ勢ノ觀易キ者ニ有之今細民ノ手業ヲ以テ大工業ノ機械製造ニ比スルニ其差違豈唯人カト時間トヲ費ヤスノミナランヤ事ノ巧拙品ノ精粗固ヨリ同日ノ論ニ無之其價格モ大ニ逕庭ス故ニ之ヲ内國人民ノ手業ニ要求セシヨリハ外國工場ノ機械ニ要求スルニ如カサルトリ此ニ由テ之ヲ觀レハ機械ト手業ト其便否得失邦家ノ損益ニ関スル蓋不尠聞ク印度地方ノ如キ初メ英ヨリ輸入スル綿糸ヲ仰キテ自國ノ用ニ供スルモ其徒費ニ堪ヘス遂ニ終績ノ業ヲ起シ今ヤ盛大ニ至リ自國ハ勿論他邦ニ輸出スル甚タ多ク製品ニ三分ノ稅ヲ拂フモ許多ノ益アリ英國遂ニ競フ能ハサルニ至ルト是近ク徴スヘキ的例ニ有之然ラハ則チ是等ノ事

業ハ最モ進歩ヲ要スヘキ第一ノモノト雖如何ヤン人民自奮ノ氣象ニ迄シテ其私設ニ係ルモノ僅々一二ノ小工場ニ過キス曩ニ泉州塔ニ設置セル紡績機ノ如キ數年ノ試驗並來漸ク目的ヲ達スルノ端緒ヲ開キ衆庶始メテ其有益ヲ辨知シ先般伺ノ如ク拂下ノ手順ニ至リ稍有志自奮ノ勢アリ猶一層ノ氣力ヲ啓發スヘキ時期ナリト雖一時大金ヲ要スル工場建築ヲ始メ機械購求ノ事ニ至テハ亦容易ノ事ニ無之時勢已ヲ得サレハ官先之ヲ創設シ行々有志者ニ下附スルノ目的ヲ以テ國益ヲ進捗ヤシメタク然ルニ一箇處ノ設立ニテハ各土綿質ノ良否製糸細太ノ適度需用ノ便否等實際ノ捷路ヲ得カタキノミナラス他日ノ増設ヲ期シ將來ノ鴻業ヲ勸築スルモ事業已ニ後ルモノ、如シ依

之先ニケ處へ建設ノ發ニシ機械ニ組ヲ至急購求致度
右ニケ所ニ要スル費額取調ハ候處左ノ通ニ有之云々

一自動紡機

寺備

内

一打綿機

精紡機四座線駝二千本ニ適
スルモノ

但諸用具天秤等相添フ

此機械ハ綿ヲホチ延綿トナシ梳條機ニ掛クルノ

原綿トナスモノナリ此機械ニ粗打精打各其機ヲ

別ニスルモノアリト雖モ僅カ二千本ノ線駝ニ適

スル小機ナレハ粗精打ヲ兼クルヲ良シトス

一梳條機精紡機四座同出

但運轉ヲ遲速スル掛替齒車種々相添フ

此器械ハ延綿ヲ疎解梳理シ纖維ヲ聚合シ條綿トナ
スモノナリ精紡機二座ニ適スルニハ大抵四五座
ヲ要ス可ク

一練條機

但運轉ヲ遲速スル齒車種々相添フ

此機械ハ前機ニテ製シタル條綿ヲ練整シ纖維ヲ

整ニ齊均スルモノトナリ

一粗紡機

但運轉ヲ遲速スル掛替齒車種々相添フ

内

一番機械

大木管數多添フ

此機械ハ前機ニテ練整マル條綿ニ條ヲ合マ一

縷ノ粗大ナル絲トナシ大木管ニ纏絡スルモノ
ニシテ此機ニ至リ綿始テ縷縷ノ形ヲ得ルナリ
此機一座ニ付絲管四十ヨリ多キモノアリ又少
ナキモノアリ聊ノ差ナレハ多キ方ヲ良トス

二番機械

小木管多数相添

此機械ハ前機ニテ粗大ナル絲ニ結キタルモノ
ヲ更ニ二條合セ稍細キ一縷ニ結キ小木管ニ纏
絡シ而テ之ヲ精紡機ニ掛ルモノナリ
此機一座ニ付絲管八十ヨリ多キモノアリ又少
キモノアリ少々ノ差ナレハ多キヲ良トス

一精紡機

四座

但一座ニ付線駄五百本合セテ二千本ノモ

但運轉ヲ遲速スル掛替車種々相添ノ

此機ハ前ノ諸機ニテ前掛ニタル粗大ノ絲ヲ細縷
ニ精紡スル者ニテ爰ニ至テ絲縷紡完ス

志座ニ付線駄五百本ニ餘ル者アリ又足ラザルモ
ノアリ出来合ニヨリ二十本以下ノ過不及ハ若シ
カラス

線駄ノ細キモノアリ太キモノアリ其太キモノヲ
良トス

又線駄ノ中間狹キ者アリ廣キモノアリ其廣キモ
ノヲ良トス其故ハ日本産ノ綿ニテハ極細ノ絲ヲ
紡出スルヲ得ス大抵英稱十六號ヨリ十八號ノ
モノヲ紡出スルニ適應スルヲ要ス

一 糸ノ純ハ車ノ加減ニテ強クモ弱クモ為シ得可者
 ナリ然レ氏元來「清紡織」ニ機ハ西洋ニテハ專ラ緯
 糸ノミヲ結キ經絲ハ別ニ其機械アリ故ニ通シテ
 ミユールノ絲ハ純弱ニ然レ氏經緯絲共「ミユール」
 一 機械ニテ辨スルヲ要ス故ニ純ノ強ク掛ルヤリ
 ニ出来タル機械ヲ良トス亦西洋ニテ經ニ用ユル
 絲ハ日本ニテハ用ビザル也
 一 カーデーヲ磨ク機械 尙具
 一 各座ノ機械大小轆轤ニ草ヲ張ル機械尙具
 一 絲篋通常一次ニ四十總ヲ絡スルモノ尙具
 日本ニテ用フル總ハ自ラ製法アリ英法ノモノハ
 一 篋ニテ足レリ
 一 絲ノ大小秤量ヲ檢スル機械 尙具

以上諸機械及ニ附屬諸械具何レモ晚近改良ノモ
 ノヲ擇ム可シ

一 鉄楯ハ不用ナリ然レトモ機械ノ一部ヲ楯ニ付ス
 ル車軸ノ枕整ヲ着クル等ノ用アル者ハ鉄ノ可ラ
 ス
 右全機械水車ヲ以テ運轉セシムル見込故ニ蒸氣器械
 ハ不用也各座ノ細圖ハ寫真圖ハ又ハ繪圖ヲ前以テ差
 送ルヲ要ス家屋造構位置ハ本邦ノ便益ニ隨フト雖モ
 機械搭付ノ位置ハ参考ノ為メ圖面ヲ以テ差送ルヲ要
 ス

右機械大凡全貳萬圓前後ニテ尙備調得ヘク貳備ニテ
 金四万圓餘ノ積リ

興業費豫算

一金貳萬八千圓

十年度費額

金貳萬八千圓

機械費

此譯 但 本年度ノ儀ハ當城購求ニ止マル依
官員月給其他諸費豫算不致候事

内譯

金貳萬五千圓

自動機準備

但 打綿機ノ精結機ニ至ルマテ一
式具備スルモノ

金三千圓

運送費

内

金貳千圓

英國倫敦ヨリ積濱マテ
運送費

金七百圓

海上保險料

金三百圓

荷造其他運送ニ要スル諸費見込

一金貳萬六千貳百五圓

十一年度費額

此譯

金千四百拾八圓

俸給

内譯

金八百四圓

判任月給

但六等一人七等一人十等一人

金五百六拾四圓

雇給

但三十圓一人十圓一人七圓一人

金五拾圓

日雇夫二百人

但一人ニ付金貳拾五錢ツ

金三百貳拾五圓九拾五錢五

給與

内譯

金百八拾圓五拾錢

雇給

内

金六拾圓

門衛一人

農商務省

金貳圓

小使二人

金拾貳圓五拾錢

掃除草取夫給

金貳圓貳拾五錢

三大節賜饌料但判任三人

金百圓

恩但官賞等
免死手當

金四拾三圓貳拾錢

諸賄料但建
宿直

金千圓

張費

金百七拾圓五錢

廳中賞

內譯

金百圓五錢

需用費

內

金拾九圓

椅子テール

金貳拾五圓

筆墨紙硯等

金貳拾圓

書籍筒長持等

金貳拾壹圓五拾錢

薪 炭

金拾四圓五拾五錢

油蠟燭茶雜具

金七十圓

郵便電信

內地郵便稅

金貳萬貳千九拾壹圓

建築費

內譯

金壹萬九千貳百圓

機械處新造吉棟

但瓦葺木造貳百四拾坪吉坪二付金八十圓

金貳千百四拾圓

綿置及認絲場其外共

但瓦葺木造綿置及絲置場各二十四坪、
枳場三十坪、認絲仕立場二十坪、工男食

場九坪、合テ百七坪、
一坪二付ニ十四ツ

金貳百四拾圓

事務所新造吉棟

但瓦葺木造貳拾四坪湯吞呀宿直合併吉坪

二付廿圓

金三十拾五圓

表裏二門

金貳百圓

地所四及買土代

但志反二付五十圓

金貳百七拾六圓

右地所周圍柵矢來

金千貳百圓

機械費

内譯

金百五拾圓

紡機横濱ヨリ運送費

金千五拾圓

器械据付工作賃錢

内

金六百圓

機関者六人大工者人
銀治一人百五十二日金五十錢

金四百五拾圓

手傳人足十二人百五十日
分一日金廿五錢ツ

合計金五萬四千貳百五圓

初年營業費豫算

一金千四百八拾八圓

俸給

内譯

金八百四圓

判任月給

但十~~四~~等一人 十四等一人 十七等一人

金百貳拾圓

等外月給

但一等一人

金五百六拾四圓

雇給

但三十拾圓一人 拾圓一人 七圓一人

一金三百八拾八圓五拾五錢

給與

内譯

金百八拾圓五拾錢

雇給

内

金六十圓

門衛壹人

金百八圓

小使貳人

金拾貳圓五拾錢

掃除草取夫給

金貳圓貳拾五錢

三大蹄賜饌料

但判任三人

金四拾五圓八拾錢

諸賄料

内

金四拾三圓貳拾錢

官負其他宿直賄料

金貳圓六拾錢

午後八時過退德賄料

金百六拾圓

恩賞

内

金三十圓

官負其他勉勵ノ者手当

金百三十圓

諸職工同断

一金五百圓

旅費

但内北ニ於テ綿買入等ニ付各所出張

一金百七拾貳圓四拾五錢

廳中費

内譯

金百貳拾七圓四拾五錢

需用費

内

金拾圓

椅子テール

金五拾三圓

筆墨紙及庫印判

金拾貳圓

土瓶茶碗類

金拾五圓

油蠟燭薪炭類

金貳拾五圓

日常用雜品見込

金拾貳圓四拾五錢

新聞買上代

金拾五圓

郵便電信

但内國用

金三十圓

雜費

但雇入費

一金壹萬七千拾貳圓

製絲費

金三十圓

工夫給料

但打綿ヲ認糸社立職ニ至ル迄一切後夫給料

金千圓

需用費

但現業ニ用ルル水油羅紗ノ下皮革類認糸
其他一式ノ小買物費

金壹萬三千圓

練綿買上

但一々年六萬五千斤買入見込百斤付金貳拾圓

金拾貳圓

運送費

但綿買入運送其他人力馬車人足費

一金百五拾圓

營業費

但紡績所其他修繕

合計金壹萬九千七百拾壹圓

損益豫算

一金貳萬千五拾圓

収入

内譯

金貳萬圓

製糸機代

金千圓

但百斤ニ付金四拾圓惣高五千斤
落綿機代
但百斤ニ付金拾圓惣高一万斤

金五拾圓

屑糸機代

一金壹萬九千七百拾壹圓

但百斤ニ付金五圓惣高一千斤
經費

比較

金千三百三拾九圓

純益

右之通初年収入損益ヲ豫算スト雖モ該年ハ事業創メ
ナルヲ以テ該収入ヲミテ經費ニ運用支辨スルノ負額

農商務省

難相立依三初年ノ義ハ前記經費ヲ營業資本ト定メ翌年ヨリ實際經驗スル所ヲ以テ其資本ヲ減シ利益ヲ増スノ目途豫メ左ニ記ス

二々年目賣額豫算

一金千四百八拾八圓 俸給

一金三百八拾八圓五拾五錢 給與

一金三百圓 羨費

一金百貳拾九圓四拾五錢 廉中費

一金壹萬六千九百圓 製絲費

一金百五拾圓 管繕費

合計金壹萬九千三百五拾六圓

二々年目収入豫算

一金貳萬千貳百圓 製絲拂代

一金九百五拾圓 落綿拵代

一金五拾五圓 屑絲拵代

合計金貳萬貳千貳百五圓

比較

金貳千八百四拾九圓 益金

右ハ貳年目ヨリ收支豫算ニ有之然レ前記賣額之内金四千百七拾六圓ハ収入金ヲ以テ運用支辨ノ見込ニ付同年以後營業資本ノ義ハ金壹萬五千圓ヲ要シ候積リ

三月 内務少書記官橋本正人ヲ愛知縣ニ遣シ結績所

建設ノ地ヲ相ヤシム其後命書ニ曰ク

愛知縣下三河國額田郡大平村ハ岡崎驛ヲ距ル南一里ニ在リ東海道ノ驛路ヲ挾ミテ村ヲ為シ南男川但俗

以テ界トス戸數二百八拾水田七拾五町白田六拾
 町アリ而ソ其白田ハ大半皆棉ヲ栽ウ棉質マダ頗佳ナ
 リ此頃縣官紡棉機ヲ建設セシメテ謀リ此地ニ就テ曾
 テ三町ヲ擇フ即チ圖中ニ記スル所ノ伊呂波是ナリ共
 ニ皆ノ官道ヲ距ルル僅カニ一町許ニシテ民家ノ背ニ
 在リ伊ハ罗川學校ニ隣リ平坦ノ叢林ニシテ地質頗ル
 堅ケレバ水溝ヲ通スル甚便ナラス殊ニ車ノ利水ヲ導
 去スルニ西或ハ東ニ向テ叢林ノ高地ヲ過キテ水田ノ
 低地ニ至ルマテノ間深サ丈餘ノ溝ヲ鑿タザルヲ得ス
 工費不貲ニシテ猶將來ノ無虞ヲ保シ難シ故ニ此地ハ
 用ヲ可カラズ波ハ伊呂ヨリ低キテ丈餘ニシテ又水田
 ニ接ス紡棉機ヲ設クルニハ可ナリノ地ナレバ懸水ノ
 高ラ僅カ四尺ニ及タズ尋常下打ノ水車ニハ猶用フル

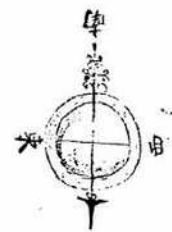
ヲ得ヘケレバ陀螺水車ニハ供シ難シ且ツ此地ハ南界
 川ニ瀕スルヲ以テ東南堤防ノ設ケアレバ下流壅塞ノ
 為メ集潰裂ノ患アリト近ク家屋ヲ壞流ヤシ痕蹟アリ
 亦用フヘキノ地ニアラス特リ呂ノ地ハ伊ニ接シテ次
 ヲリ高キテ一丈六尺貳寸南ハ絶岸壁立シ下モ水田ヲ
 隔テハ罗川ニ對ス北西ハ叢林葱鬱トシテ東ハ海道ノ
 驛路ニ通ス地質上層厚サ二尺五寸許ハ園土ニシテ下
 層ハ赤埴ニ小石ヲ交ヘ牢實ニシテ直チニ以テ柱礎ヲ
 安ク可シ南岸ノ絶壁ニ崩壞ノ痕ナキヲ以テ亦其堅緻
 ナルヲ證スルニ足レリ此地俚俗東大森ト名ク蓋シ東
 方一脈ノ岡ニ連ナリタル森林ナリシヲ後墾シテ自用
 ト為ヤル者ハ陀螺水車ヲ設クルニ最モ簡ニシテ便ナ
 ルノ地ナリ即チ車ヲ絶壁ノ下ニ安キ堅輻ヲ高ク長ク

シテ動力ヲ上ニ在ル所ノ機械ニ傳フルハ懸水ノ高
サ一丈一尺一寸ヲ得テ其壓力益強ク而シテ其剝水ハ
引テ以テ田ニ灌ク可シ從來コ、エ一ノ溝渠ヲ鑿テ堰
ヲ穿川ニ通シテ以テ田水ノ用ニ供スルモノアリ修繕
ノ費毎歲概子六七十圓ニ上ル其費用往時ハ藩費ナリ
シカ今ハ悉ク民費ニ係ルト謂フ今車ノ剝水ヲ以テ此
田ニ供スルルハ復堰ヲ修ムルノ勞ナクシテ農民ノ喜
ビ知ル可キナリ更ニ地アリ是ヲ仁トス此地民居ト官
道トヲ隔ラ呂ノ正東ニ在リ直ニ官道ニ接シ呂ト一
脈ノ地ナリ叢林ニシテ地凹凸ヲ為スト虽凡コレヲ
平スルヲ甚難キニアラス中ニ韓天ノ一社アレ凡里民
ニ謀レハ他ニ移スル亦容易ナルヘシ地質呂ト相同シ
ク懸水ノ高サモ稍差等ナク且高燥ニシテ之ヲ南ヨリ

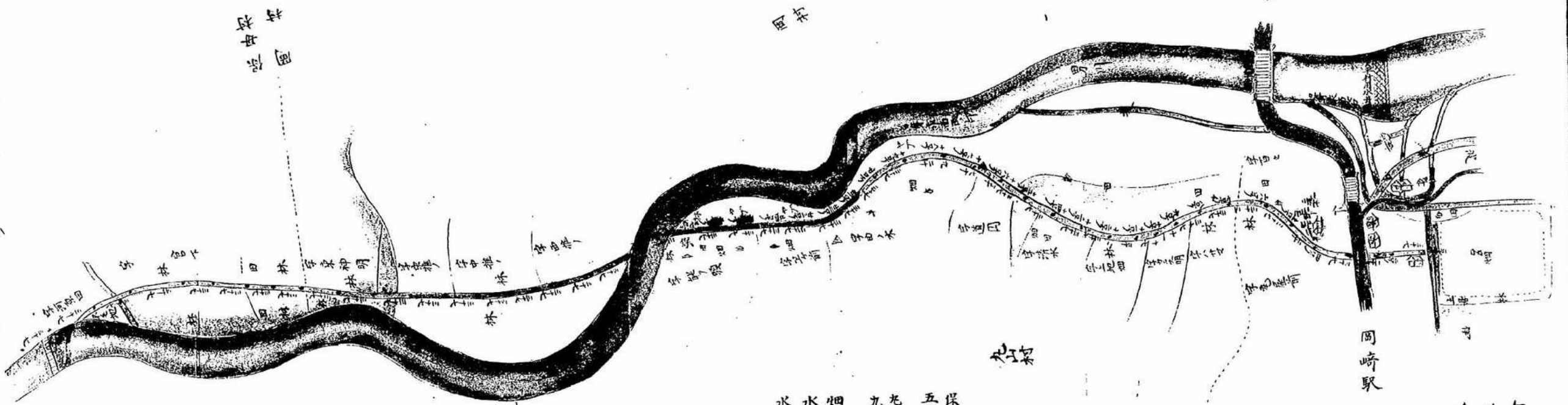
懸水ノ高

愛知縣下三河國額田郡大平村
新水路并地勢畧圖

印番槓場
總丈別五及八節五寸
内別五拾五寸
林丈別三及八拾五寸
林丈別三及九節四寸



水路標杭第壹号ニテ改
水源水平線より高十一尺五寸四分五厘
水下毛地平線低十一尺六寸二分
差古今新
同第貳号ニテ改
水源水平線より高十一尺三寸四分六厘
水下毛地平線低十一尺四寸四分
差古今新
同第參号ニテ改
水源水平線より高十一尺四分四分五厘
水下毛地平線低十一尺五寸四分五厘
差古今新



岡崎駅中央二三拾町
藤川駅中央二七拾里

大平村
瓦山村

保母村字河原田ヨリ岡村字西推ノ道
五百九拾貳間内貳拾七間川中
瓦山村字男ノ頭ヨリ番槓場迄
九百八拾貳間六尺

畑上端ヨリ水底マテ長八尺六寸用
水路水深リ式尺四寸
水底標杭印ノ號

- 第一節 高八尺九寸四分五厘
低七尺九寸四分五厘
差一尺
 - 第二節 高八尺七寸四分五厘
低七尺七寸四分五厘
差一尺
 - 第三節 高八尺五寸四分五厘
低七尺五寸四分五厘
差一尺
 - 第四節 高八尺三寸四分五厘
低七尺三寸四分五厘
差一尺
 - 第五節 高八尺一寸四分五厘
低七尺一寸四分五厘
差一尺
 - 第六節 高七尺九寸四分五厘
低七尺九寸四分五厘
差一尺
 - 第七節 高七尺七寸四分五厘
低七尺七寸四分五厘
差一尺
 - 第八節 高七尺五寸四分五厘
低七尺五寸四分五厘
差一尺
 - 第九節 高七尺三寸四分五厘
低七尺三寸四分五厘
差一尺
 - 第十節 高七尺一寸四分五厘
低七尺一寸四分五厘
差一尺
 - 第十一節 高七尺九寸四分五厘
低七尺九寸四分五厘
差一尺
 - 第十二節 高七尺七寸四分五厘
低七尺七寸四分五厘
差一尺
 - 第十三節 高七尺五寸四分五厘
低七尺五寸四分五厘
差一尺
 - 第十四節 高七尺三寸四分五厘
低七尺三寸四分五厘
差一尺
 - 第十五節 高七尺一寸四分五厘
低七尺一寸四分五厘
差一尺
- 總計高七尺四分五厘
總計低七尺四分五厘
差一尺

望ムハ官道ノ直前ニ當リテ位地ノ良キヲ復ニ召ニ
 勝レリ然レハ只車ノ剝水ヲ導去スルノ事極メテ難シ
 トス此地南岸ノ下ニ小溝アリテ沿溝諸畝ノ瀝水皆コ
 レニ集マリ罗川ニ注ク今剝水ヲ此溝ニ流サントスル
 ハ懸水ノ高ヤ頓ニ四尺ヲ減スヘク深ク此溝ヲ掘リ
 テ其度ヲ求メントスルハ又一雨コトニ沙土車ヲ埋
 設スルノ患アリコレヲ直ニ罗川ニ流ヌハ其水ヲ養
 田ノ用ニ當ツルコトヲ得ス一機械ノ為メニ多量ノ水ヲ
 取リテ又コレヲ徒ラニ棄ツルハ農民ノ苦情知ルヘ
 キノミ又罗川ノ漲リ騰ルル甚シキハ或ハ五六尺ニ
 至ルコトアリト云ヘハ饒々卑クモ八尺ノ堤ヲ築キテ其
 水ヲ防カサルヲ得ス必ス此地ヲ用ヒントスレハ別ニ
 剝水ノ深溝ヲ鑿テ直チニコレヲ呂ノ岸下ナル養田水

農商務省

海ニ連子外ニ堤防ヲ統ラスヘシ之ヲ沼ニ較ルニ其工
費殆ト数拾倍ナルヘシ而シテ尚將來屢々キヲ保シ難シ
但此地ヲ用ユルハ引水溝ノ長サ沼ヨリ百四五十間
ヲ減スルヲ得ヘシト雖モ之レ些少ノ費用ニシテ畢竟
沼ノ地ニ若クモノナカレヘシ
車ノ水ハ之ヲ男川ヨリ導クヘシ男川ハ其源本國巴山ニ出テ
數個ノ溪流コレニ會シ千萬町村ニ至リ始テ川ト為ル
所ヲ矢矧水源ノ出ツル所ト山ノ背面ヲ異ニスルノミ
太平村
ハ千萬町ノ距ルニ七里ニシテ其源甚遠カラスコヲ以テ水
甚ク深カラスト虽モ常ニ涸ル、一ナク是早ノ時ニ去リテ
モ早水減スルニ僅ニ三寸ニ過キスト云フ一歲中今二月ヲ水ノ最モ
少キノ時トス然レモ保ノ処ニ於テコレヲ測ルニ一秒時間ニ五方尺
二百八十餘ノ水ヲ流ス懸水ノ高サ一丈一尺ナルキハ一秒時間

新田

ニ流ル、水量五方尺ニ、テ該カ一馬力七四精カ一馬
力一三ヲ作ス今線駝二千本ノ結綿機一坐ニ須ソ所ノ
カハ優算スルモ精カ十六馬力ニシテ餘ソアリ此水量
ハ一秒時間ニ五方尺二十八ニシテ全水ノ凡ソ十分一
ノミ然レモ今新タニ分水溝ヲ鑿クニハ務メテ其中
ヲ廣クスルヲ宜トス凡ソ鑿溝ノ費ハ廣狹ニ由テ素ヨ
リ其差アリト雖モ猶淺深ニヨリテ生スルカ如キニハ
アテス水量競多ナルハ將來別ニ何種ノ工業ヲ起サ
ントスルニモ甚ク都合能也且此川ハ既令其底ヲ盡ク
シテ水ヲ取ルモ下流ニ於テ些モ妨クル所アルニ無ク
唯保ノ處ヨリ下宮村ノ間此水ヲ引テ田ニ灌ク一町ア
レモ其田僅ニ五六ニ過キス其他ハ一人營業ノ水車ニ
西アルヲ見ルノミ抑近傍農民ノ一ニ此水ヲ頼カ西ノ

新田

地ハ皆呂ノ下流ニ在レハ車ノ利水ヲ以テ又之ニ供ス
ヘシ保ヲ分水ノ地トス但此處ヨリ取ルハ呂ニ至
一丈一尺ノ高サヲ得ヘケレ長少シク下流ヨリセント
スルキハ頭ニ大ニ其高サヲ減スコレ保ノ下ニ急湍ヲ
リテ大ニ高低ヲ作シ其他ハ平地ノ如クナレハナリ且
保ノ上ト下トハ川流曲折シテ灣ヲナジ折處ニ各大巖
石アリ男ノ頭女ノ頭ト名ツク此間水勢激々ヌ渦流シ
テ深淵ヲナシ分水ノ門ヲ開クニ最モ宜シトス保ヨリ
呂ニ至ルノ間坂ニ薄路線ヲ定メコレニ沿フテ其距離
ヲ量ルニ凡八百七拾三間十四町五分五厘此間丘岡ノ溪ニ跨ル
者水田ト白田トヲ踰エル者一白田ニ巨ル處一アレヒ
皆近小ノ地ナリ此三處ハ築上ニシテ溝ヲ通キサルヲ
得サレバ此地隨所石甚タ多クシテ只割リ取ルノ工費

農書

ヲ以テ得可ク土ハ乃々埴ナリ自餘ハ皆ナ岡ノ腰背ニ
シテ土質堅實埴リテ直ニ水ヲ流ス可ク距離ノ遠長ニ
比スレハ工費ハ甚少ナカラン又上流ニ沂ルハ凡六百
六十拾六間一分ニシテ邊ヨリ水ヲ分ツキハ呂ノ懸水
更ニ高キヲ得ハク懸水益々高キキハ車轉愈佳ナルモ
溝路頗ル遠長ニ亘リ且ツ保ニ於テ水流ヲ踰エシムル
ノ工作極メテ難シ今保ヨリ分ツ所ノ懸水一丈一尺ノ
高サノミニシテ陸螺水車ニ於テハ未タ以テ足レリト
セサレバ其足ラサル所ハ水量ノ多キヲ以テ補フ可キ
ノミ但邊ヨリスルキハ間ニ平林アルヲ以テコレヲ盤
潤ヒハ四町余ノ水田ヲ得ルノ利アリ然レバ此ハ別事
ニシテ紡機水車ノ為ニハ敢テ取ラサル所ナリ概シテ
コレヲ論スルニ以上視ル所ノ地皆各様機械ヲ設ケ各

農書

種水車ヲ構フヘケレバ其便良ナルハ若クモ
ノアラサルヘシ曩ニ此機械ヲ設クル為ニ同郡鹿村ニ
擇ビシ所ノ地ハ今圖ニ據ラ考ルニ此地ニ及ハサル
又實ニ遠シク僻陬山隅ニ偏セスシテ是ノ如キノ地ハ
他國ニ買ムルモ想フニ應ニ多ク有ラサルヘシ

四月 紡績機械購買准許ノ命アリ

五月 内務省八等属佐野直重ヲ愛知縣下三河國額田郡
大平村ニ遣シ水路ノ高低等ヲ測量セシム

○十二年一月 内務省七等属藤井正明及倉石河正龍ヲ
愛知縣下三河國額田郡大平村ニ遣シ紡績所建築地ノ
繩張及地処購求等ノ事ヲ処辦セシム

三月 器械据付場道敷地用水路捨水路等ノ為民有地ハ
千七十一坪ヲ八百拾圓九十五錢ニ買ヒ其家屋若干戸

ノ移轉料百九十五圓七拾錢ヲ給ス

該建築地ハ官有地ヲ併セテ八千九百拾五坪七合トナ
ル其内機械場二千百五十一坪六合道敷地三百六十六
坪八合用水路五千九百十五坪五合捨水路四百八十一
坪八合ナリ

五月 内務省六等属岡田令高ヲ同處ニ遣シ六月綿絲貯
藏所及事務所ノ建築ニ着手ス

七月 内務卿大久保利通ヨリ工場建築ノ事ヲ上申ス其
畧ニ曰ク

當省勸農局主管綿糸紡績所機械裝置處及綿所及水車
上屋共一棟建築ノ積リ專ラ裝飾ヲ省キ堅牢ヲ旨トシ
仕様編制為致候處金八千二百三十六圓壹錢七厘ニ有
之云云

八月 此ヨリ先外國ニ注文セル機械來着セルヲ以テ之
ヲ太平村ニ輸ル

同月及十二月 男川ノ水勢ヲ驗定ス其報告書左ノ如シ
大平村男川今年七八月ノ間非常ニ減水シ其水量別紙
甲号ノ如ク六十三馬力一九九トナリ之ヲ線駈二千本
ノ紡績機械ニ適用センニ其量僅カニ一倍強ノ馬力ニ
過スシテ若シ此上ニモ減水セハ為メニ事業ヲ停セ
サルヲ得サル時モアルヘシトノ懸念有之候処其後數
月ヲ經過シ今日ニ至ルマテ連綿晴天打續キ其間或ハ
一時ノ降雨有之候得共急々増水シテ急々減シ之ヲ測
量標ニ照計スルニ未曾テ別紙甲号ノ水量ヨリ減セシ
ト無之今又水涸ノ時節ヲ見計セ十二月十四日ヲ以テ
更ニ水量ヲ測量セシニ別紙乙号ノ加ク精馬力九十馬

力三五五ヲ得其量線駈二千本ノ紡績所要三倍ニモ相
及候ニ付前顯甲号ノ水量ハ男川最減ノ水ト認定被致
候間線駈二千本ノ紡績ヲ設置スルニハ憂慮無之ト存
候依テ甲乙号別紙相添此段上申候也

勸農局長 石河正龍 印

明治十二年十二月十七日 内務八等屬 平野誠一郎 印

内務六等屬 岡田令高 印

勸農局長 松方正義 殿

別紙

甲 明治十二年八月廿日三河國額田郡大平村男川ノ内
字久保瀬ニ於テ水勢試驗左ニ

三尺廻リ水車ヲ轉ス	水深
四拾九轉	八寸

四拾壹轉	八寸
四拾三轉	七寸
四拾三轉	七寸五分
四拾六轉	八寸
合貳百貳拾貳轉	合三尺八寸五分
是ヲ五ツニ割リ	是ヲ五ツニ割リ
平均四拾四轉四分	平均七寸七分

川幅三拾六尺

右壹分時間ノ流レ百三拾三尺貳寸

平方尺四千七百九拾五個貳分

立方尺三千六百九拾貳個三分〇四

是ヲ壹秒時間ニ割リ

立方尺六拾壹個五分三厘八毛四

右ノ水流高低壹丈三尺ト算合シテ精馬力六拾三馬力
一九九ヲ得

明治十二年十二月十四日三河國額田郡大平村男川

ノ内久保瀬ニ於テ水勢試験左ニ

三尺廻リ水車ヲ轉ス	水深
七十八轉	八寸五分
七十四轉	八寸
七十三轉	六寸五分
六十四轉	八寸五分
六十轉	一尺〇五分
六十六轉	一尺
六十四轉	九寸
六十九轉	七寸五分

合五百四十八轉

合六尺八寸五分

是ヲハツニ割リ

是ヲハツニ割リ

平均五拾八轉五分

八寸五分六厘二五

川幅三十尺

右壹分時間ノ流レ貳百〇五尺五寸

平方尺貳百〇五個五

立方尺五千貳百七拾八個七八一

是ヲ壹畝間ニ割リ

立方尺八拾七個九七九

右ノ水流高低壹丈三尺ト算合シテ精馬力九拾馬力三

五四ヲ得

十二月 六等屬岡田令高及崖篠田直方ニ第一綿絲紡績

愛知縣ニ改クル者ヲ第一トシ長鳴縣ニ改クル者ヲ第二ト名
呼ビト並價習ニヨリ愛知紡績所長鳴紡績所ナリタルト如シ

事務取扱ヲ命ス

〇十三年一月去年七月ノ仕様編成ヲ實際ニ就テ調査シ

更ニ節減ヲ加ヘ四千八百四拾九圓八拾八錢二厘トナ

ル旨ヲ内務卿ヨリ上申シ又總錄所一棟新営概算七百

八拾圓引水路拾水路堰駝螺水車場及水橋新営豫算合

一萬千三百九十二圓八拾錢八厘ヲ同定ス

三月 家屋及ヒ石垣土堤等ノ建築ニ着手ス

同月 三河國額田郡岡村人民ト分水條約ヲ結フ其文ニ

曰ク

約 是 證

今般愛知縣下三河國額田郡大平村第一綿絲紡績所建

設ニ付男川筋字女玉頭ニ於テ用水堰取設ノ為メ約定

スル左ノ如シ

愛知縣志

一今般羅川筋字女五頭ニ可設堰新設ハ勿論將來修覆
築替共一切第一綿絲紡績所ニ於テ引受可申事

但從前ノ堰板等ハ今般新設ノ堰用ニ相用不申事
一今般新設ノ堰中ニ設ル杵初年一度ハ第一綿絲紡

績所ニ於テ取設ケ將來ノ修替等ハ岡村ノ引受タル
ハキ事

一前条ノ堰ヨリ從來岡村ノ田地ハ引水致來候ニ付テ
ハ岡村田地段別貳町五反歩限リニ灌用スル為メ別

紙圖面ノ杵ヲ設ケ入用丈ノ水量ヲ分水可致事
但旱魃ハ年ニ延綿績所休業ナルニ至ルハ紡績

所ニ於テ其責ニ任ヤス候事
右ノ條々双方兼諾ノ上各記名調印ニ盡通ハ第一綿絲

紡績所ニ於テ之ヲ所持シ盡通ハ岡村戸長役場ニ於テ

之ヲ所持スルモノトス分水條約仍テ如件

勸農局第一綿絲紡績所

明治十三年二月七日

内務五等屬岡田令高 印

愛知縣下三河國額田郡岡村戸長

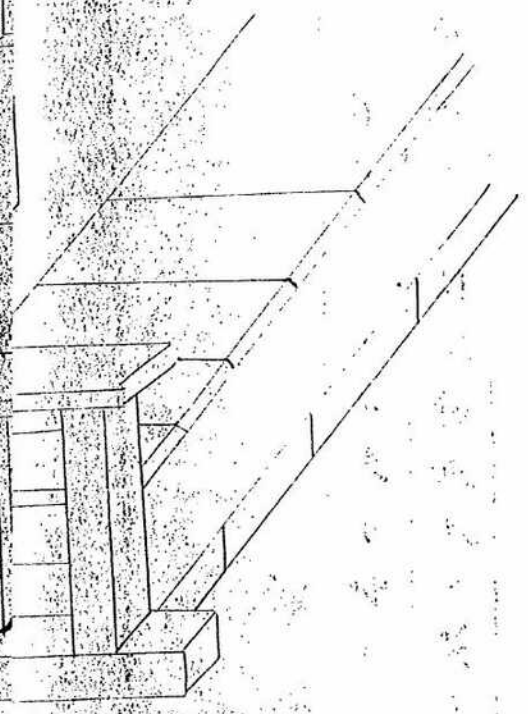
本間良次 印

愛知縣下三河國額田郡岡村人民惣代

石井太吉 印

柴田唯七 印

全



紙圖面ノ机ヲ設テ入用丈ノ水量ヲ分水可致事

但旱魃ハ年ニ反結績時休業スルニ至ルルハ結績

所ニ於テ其責ニ任セズ候事

右ノ條々双方兼諾ノ上各記名調印シ書通ハ第一綿絲
結績所ニ於テ之ヲ所持シ書通ハ岡村戸長役場ニ於テ

之ヲ所持スルモノトス分水條約仍テ如件

勸農局第一綿絲結績所

明治十三年二月七日

内務五等属岡田令高 印

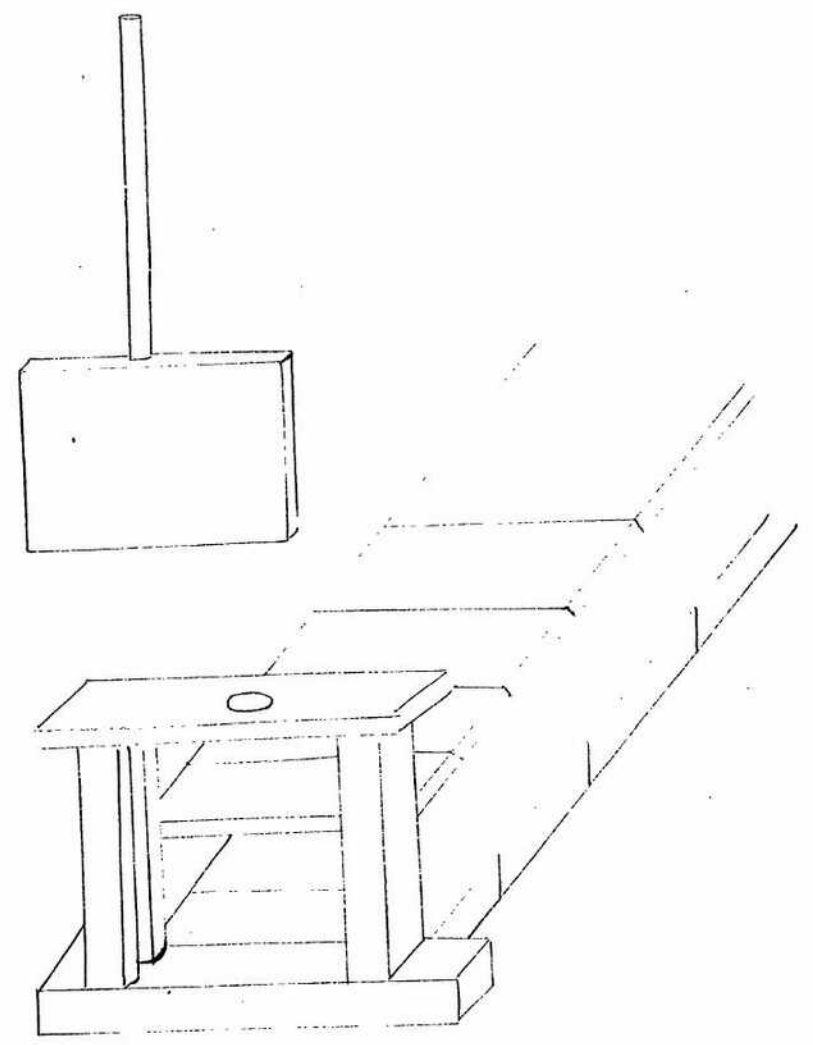
愛知縣下三河國額田郡岡村戸長

本間良次 印

愛知縣下三河國額田郡岡村人民惣代

石井太吉 印

全 柴田唯七 印



一今般羅川筋字六五頭ニ可設堰新設ハ勿論將來修覆
築替共一切第一綿絲紡績所ニ於テ引受可申事

但從前ノ堰板等ハ今般新設ノ堰用ニ相用不申事
一今般新設ノ堰中ニ設ッル杵初年一度ハ第一綿絲紡
績所ニ於テ取設ケ將來ノ修替等ハ岡村ノ引受タル

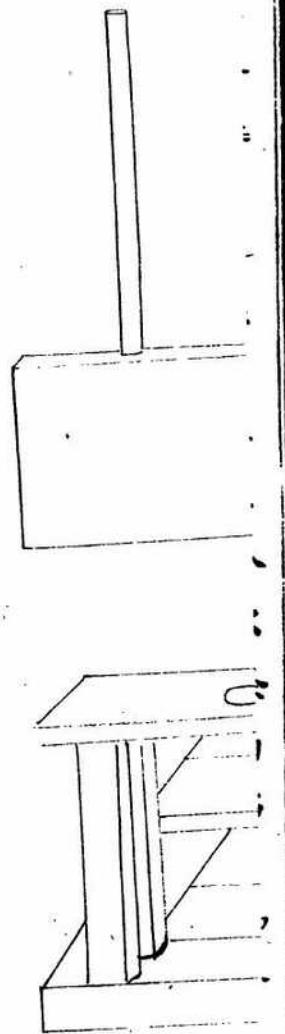
ハキ事

一前條ノ堰ヨリ從來岡村ノ田地ハ引水致來候ニ付テ

ハ岡村田地段別貳町五反歩限リニ灌用スル為メ別
紙圖面ノ杵ヲ設ケ入風丈ノ水量ヲ分水可致事

但旱魃ハ年々反結績所休業等ニ至ルハ結績
所ニ於テ其責ニ任ヤス候事

右ノ條々双方兼諾ノ上各記名調印シ書通ハ第一綿絲
紡績所ニ於テ之ヲ所持シ書通ハ岡村戸長役場ニ於テ



六月 横須賀造船所ニ依頼シテ駮螺水車ヲ造ラシム此
年十一月成ル

七月 五等屬岡田令高ニ會計事務取扱ヲ委ネシム

八月九日 早天ヨリ雨天トナリ午後七時マテハ或ハ雨

リ或ハ歌ノノ英ナリシニハ時前ヨリ暴雨トナリ終夜
 間断ナク十日朝益々甚シク午前七時ヨリ河川追々出
 水九時頃愈暴漲シ九時半本年架設セル大平橋流失セ
 リ此ノ如キ勢ナレハ本所ノ水取口ナル男ノ頭ハ平水
 ヲリ約ソ一丈ノ水嵩トナリ殆ト元山ヲ越エテ水路ハ
 切込ントスルノ勢又吐水口享下市場ノ堤防モ同様ノ
 有様ニテ処々破損セリ是レ引水路等新設ノ際南側土
 堤竹草ノ根張ナケレハナレハシ
 同月二十五日午前七時頃ヨリ降雨午後一時頃ニ至リ
 暴風雨トナリ建築場大工小屋破潰五去時ノ至ニ至リ
 風雨ハ愈々猛烈河川又々出水七時頃ハ平水ヨリ高キ
 九尺強トナリ殊ニ夜陰ニ向フニ付水取水吐兩口ノ堤
 防々築ニ尽カセシニ八時半ヨリ雨歇ニ風モ少シク和

廣南堤防

キ水路筋ハ去九日破損ノ外無難ナリシ

九月 建築落成ス

十一月 岡田令高ヨリ十一、十二、十三年度興業費取請
 書ヲ出ス總計五萬三千三百六十七圓拾錢九厘其内十
 三年度ノミハ豫算ナリ

齋舎費貳千九百三十一圓九拾二錢五厘(十年度六千
 九百三十四錢三厘) 十一年度三百十三圓八十三錢
 四厘 十二年度千三百三十三圓七十四錢八厘 十三
 年度千四百十五圓

建築費二萬四千三百三十三圓九十錢一厘(十一年度
 千四十四圓二十錢一厘) 十二年度二萬三百八十六
 圓七十錢 十三年度二千九百三圓

機械費二萬六千一百一圓二十八錢三厘(十年度一萬七

廣南堤防

千五百十二圓二十三錢二厘
○十一年度七百三十四
九錢九厘
○十二年度二千三百四十五圓八十五錢二
厘
○十三年度五千五百四十圓

其詳記ハ左ノ如シ

○十年度興業費

一金三拾八圓八拾錢五厘

廳中費

内

郵便電信

金壹圓二拾二錢六厘

外國郵便

金三拾七圓五拾七錢九厘

同 電信

一金三拾圓五拾三錢八厘

外國人諸費

外國旅費

是ハ機械註文ニ付在倫敦我領事在外國人ヲシテ機
械檢査ノ為メ倫敦ヨリマニタエヌトルハ出張為致

候款費

一金壹万七千五百拾二圓二拾三錢二厘 機械費

内 譯

金壹万二千八百五拾一圓六拾三錢五厘 機械買上

高英貨千九百三拾二磅拾壹時令四パンス

此英貨千八百三拾九磅拾八時令九パンス但金壹圓二付
英貨三時令
二八五

外

英貨九拾五磅拾二時令セパンス 直引

内

英貨三百二拾五磅

輾軸抗沼機械 五個

同 九十五磅

木綿抽引木匠 一個

同 貳磅貳時令

磨鉄清淨器蓋 十二個

同 百八磅

木綿捲糸木匠 一個

全	五時令	頂上ノ横木	二個
全	五時令	上部木板ノ支柱	二個
全	三時令	底部木板ノ支柱	二個
英貨	三時令	上部ノ車軸支柱	二個
全	三時令	底部車軸支柱	二個
全	二磅十五時令三ペンス	上部ノ輾軸	十三個
全	五時令十一ペンス	上部清淨器	一個
全	三時令九ペンス	下部清淨器	二個
全	八時令八ペンス	ドラフト	二組
全	九時令十ペンス	トウイスト	全
全	十二時令	ラック	全
全	八時令	レギエレーター	全
全	六時令	リフティング	全

全	十五時令六ペンス	豫備紡錘	フライヨル	二個
全	五時令	フォルラル		四個
全	四時令	紡錘		二個
全	二時令六ペンス	繰車ノ輪		同
全	三時令	スタンド、スライド		同
全	五時令	コンビイング、フィンガー		同
全	五時令	上部木板ノ支柱		同
全	五時令	底部木板支柱		同
全	三時令	上部車軸支柱		同
全	三時令	底部ノ車軸支柱		同
全	七磅十時令	ラフブローラー		一個
全	六磅十時令	絲試験器		一個
全	五磅	捲臺		同

全	三磅十時令	ハンクワドラント同
全	五時	輾軸覆ヒ器城 一個
全	六磅	輾軸エンジンク器一個
全	英貨一磅七時令	尺 度 一組
全	六時令六ペンス	曜 鏡 一個
全	三時令六ペンス	小 刀 三個
全	四時令	コムパス 一對
全	二磅十五時令	ラップ用尺度 一組
全	三磅十五時令	スカッケル用尺度 一組
全	百十四磅	振治機械線 六組
全	十一時令	ハンドストロウキング 全
全	三十七磅十時令	振治機械カニ 二百五十個
全	一磅十九時令	トツフイング 錫 六個

全	七時令	小油カニ 一個
全	一磅	ミユール 八個
全	十二時令	糊 箱 四個
全	二磅十時令	大油 器 一個
全	五磅十四時令九ペンス	十ノ車々絡車六百十二個
全	十七磅四時令三ペンス	八ノ車々絡車四千九百十六個
全	二磅七辺子	十ノ車 四百六十八個
全	七磅十二時令	八ノ車 二千三百四個
全	五磅十六時令八辺子	一ノ車 百七十五個
全	一磅十二時令	二ノ車 四十八個
全	十五磅	三ノ車 二百二十五個
全	二拾五磅	四ノ車 三百個
全	三磅	水牛スキップ 六個

全	十時令	大ペンム	コーン細	三個
全	五時令		三十「インテ」スウイングレース	百四十四個
全	十三時令		三十「インテ」ラツチングレース	百四十四個
英貨	五磅	五時令	スカマンタル布	三十個
全	九時令		小「ハンド」アラシユ	一個
全	十三時令		長「ハンド」アラシユ	同
全	一磅	十時令	アラシユ	同
全	四磅	十時令	皮帶	五個
全	十時令		平頭釘	二十ヶ
全	二磅	十五時令	金剛砂	一箱
全	六時令		精良木製「ストリツケル」	一個
全	六時令		粗悪水製「ストリツケル」	同
全	十六磅		通常研磨輾軸	二對

全	三十六磅		機械用磨キ品	一個
全	八ペンム		機械用栓	百四十四個
全	三時令		機械鏈	一ヤルト半
全	百五磅		機械用單附屬	一個
全	四百五拾磅		自動絢絲	四個
全	十四磅		上部運轉裝置	全
全	十磅		パテントレギユレーター	モーション
全	十五時令		四十カート用ノ磨キ地棒	十個
全	二磅		機械用磨キ地棒	二個
全	一磅	四時令	スカッラルノケチ車輪	一個
全	十四磅	八時令	車輪	十八個
全	七磅		カム、ホルク	十二個
全	七時令	大ペンム	結鉾	一個

機用磨キ品

全	二十磅九時令	六ペンス	上部ノ輾軸	百二十六個
全	八磅十一時令	三ペンス	上部ノ清淨器	六十八個
全	一磅四時令	六ペンス	下部ノ清淨器	十四個
英貨	十二磅十時令		磨キシエフチング	二十四個
全	十六磅十時令		全	六十八個
全	九磅十時令		カウンテヤシエフト	三個
全	七磅		連筒	四個
全	二拾七磅十時令		夫シエフトノ柱脚	八個
全	七磅		柱脚	二個
全	十壹磅十時令		ウオールホックス	六個
全	四磅十時令		紐通シ	一個
全	九磅十時令		桁	四個
全	九磅十時令		三十六インチノ滑車	三個

全	二拾三磅五時		三十一インチノ滑車	八個
全	四磅十時令		廿四インチノ滑車	二個
全	二磅十時令		二十インチノ滑車	一個
全	九磅十五時令		七ナインインチノ滑車	六個
全	二磅		カルロニ滑車	一對
全	五磅		油	四個
全	五磅		錫	四個
全	四千六百六十圓	五拾九錢七厘	運送費	

合計金壹万七千五百八拾壹圓五拾七錢五厘

○十一年度要業費

但 英國マンチエストル機 機軸百三十八箱 運送船賃共

俸給

雇月給

但十五圓一人

一金百二十四圓七拾二錢八厘 給與

内

諸 產 給

金拾六圓四拾錢三厘 小使給

金七圓五拾錢 機械檢査人給

金百圓三拾錢 圖引職工給

金五拾二錢五厘 臨時人足給

一金百七拾四圓拾錢六厘 庶中費

内 譯

金六拾三圓五拾四錢八厘 需用費

内

金七圓七拾五錢 椅子テール

金五圓六拾四錢九厘 筆墨紙文笺算盤等

金拾二圓 圖引器械

金三圓三拾五錢 時計

金四圓 書籍箱算筒等

金壹圓三拾五錢七厘 火鉢煙草盆

金二圓七錢 土瓶茶碗茶

金壹圓二拾四錢九厘 薪 炭

金壹圓十錢 油 蠟 燭

金七圓六拾五錢 蒲團蚊帳新調

金九拾六錢八厘 行燈提灯等

金八拾三錢九厘 手桶盥柄杓等

金拾圓六拾八錢 新聞紙廣告料

金四圓八拾八錢六厘 糊綴葺盆附水燈心

一金三四十八錢 郵便電信

一金百七圓三拾七錢八厘

但内地郵便

雜費

内

金七圓二拾九錢

仮事務所借料

金三拾三錢八厘

郡入費

金九拾九圓七拾五錢

機械入借庫料

一金千四拾四圓二拾錢

建築費

内譯

金千六圓六拾五錢

地所買上

内

金八百十圓九拾五錢

機械所水路用地代

金百九十五圓七拾錢

民家移轉手當

金三拾七圓五拾五錢一厘

新營

但建築及張番所
圓并二地均等

一金七圓三圓拾九錢九厘

機械費

内譯

金五拾四圓六拾錢

諸雇給

但鍛冶職給

金六百四拾八圓九錢九厘

運送費

内

金五百二拾二圓四拾七錢七厘

機械百三十八個
横濱陸揚費

金百二拾六圓拾二錢二厘

川越運送ヨリ深

合計金二千六拾七圓二拾三錢四厘

○十二年慶興業費

一金四百二拾二圓五拾錢

俸給

内譯

金二百四拾二圓五拾錢

判任
但寺人

金百八拾圓

雇
但十五圓志人

一金百七拾八圓四拾九錢六厘

給與

内譯

金百六拾二圓四十四錢六厘

諸雇給

内

金六拾七圓五拾錢

小使給

金二圓六十錢

馮字生給

金九拾二圓三拾四錢六厘

臨時雇夫給

金拾六圓五錢

諸賄料

但小使宿直賄料

一金百九拾五圓三拾五錢

旅費

但判任雇興業中各地
出張旅費

一金三百三拾七圓四拾錢二厘

廳中費

内譯

金二百九十二圓四拾壹錢五厘

需用費

内

金五圓八錢

椅子テーブル

金三拾四圓十七錢二厘

筆墨紙硯算盤等

金八圓六拾錢

書籍箱篋笥等

金八圓

製圖板并定規等

金八圓五拾錢

製圖紙

金三拾壹圓五拾錢

玉瓶茶碗茶等

金二拾四圓六拾壹錢九厘

薪炭

金五回二拾錢

手桶鹽柄杓等

金四回二拾七錢四厘

雜中綴葶附水燈心

金拾三回拾五錢

水 準 器

金百回

鉄製 帶箱

金四拾八回四錢

測量 杭並繩

金五回二拾八錢

叔 穀

金拾九回廿錢

郵便電信

内

金九回六拾六錢

内地郵便

金九回四拾六錢

内地電信

金二拾五回八拾六錢七厘

雜 費

内

金二回九拾錢三厘

仮事務所借所

金二回六錢四厘

村中協議費

金二拾回九拾錢

機械入借庫料

一金二萬三百八拾六回七拾錢

建築費

内 譯

金八百五拾五回

倉庫志棟新営

金六千三百六拾八回八十九錢四厘

引水路堀割及水門板橋伏越橋共一式

金六百三拾三回九拾三錢三厘

拾水路堀割及水橋水門一式

金三千八百四拾七回七拾七錢志重トシ水車塔付場石積一式

金四千八百四拾九回八拾八錢二厘紹續機械所志棟新営

金七百八十回

總繰場志棟新営

金五百八十回

設置地南側石垣一式

金二千四百五拾七回拾五錢七厘 新 営

但 設置地均周圍土手築及事務所志棟油置場志棟映飯所志棟

倉庫内床張、夫門、西、
水源、西、東海道、
來本橋、西、夫通、土、
聖德ニケ所、

金貳拾四六錢三厘

修繕

但機械、小屋等修繕

一金貳千三百四拾五圓八拾五錢貳厘 機械費

内譯

金五百六拾六圓七十壹錢七厘 諸產費

内

金四百四拾四圓

機械、搭置職工給

金百二拾二圓七拾壹錢七厘

同、磨夫給

金百五拾五圓二拾九錢七厘

需用費

内

金百九拾五圓

銃形、壹組

金拾二圓

ブロック、壹個

金二百四拾四圓二拾錢

鍛治道具、壹折

金二拾二圓七拾五錢

ハット、二樽

金四圓二拾三錢壹厘

石、驗坪糸、筵等

金貳拾六圓七拾錢五厘

磨研布、磨砂、ボロ切、
輕石、光明丹等

金五拾三圓六拾六錢

磨用油

金貳拾五圓拾七錢四厘

銀治炭

金六拾五圓五拾六錢七厘

鉄鋼、鉄鉛等

金千百四圓六拾三錢八厘

運送費

内

金千八拾四圓二拾錢八厘

機械、東京ヨリ、大
平村、運送費

金二拾四圓四拾三錢

機械、搭付用品、運送費

金拾九圓貳拾錢

内國旅費

但職工召集旅費

合計金二萬三千八百六拾五圓三拾錢

。十三年度興業費

一金千四百拾五圓

齋舍費

内 詳

金四百二十拾圓

為官俸給 但寺人

金九拾圓

備負俸給 但十五圓一人

金三百六拾八圓三拾錢

旅費 為官備興業中各
地出張旅費

金百五拾圓

勉勵賜金 為官備興業中
勉勵手当

金二百二十拾二圓

備給

内

金九拾六圓

小使給

金九拾五圓

臨時人夫給

金三拾一圓

臨時掃除草取給

金拾五圓

備品

内

金六圓五拾錢

椅子 3-1ゲル 新
修詢

金八圓五拾錢

手桶 盥藥 鏡等

金八拾八圓五拾錢

消耗品

内

金二拾三圓五拾錢

筆墨紙

金三拾五圓

薪炭

金九圓三拾錢

油蠟燭

金拾六圓七拾錢

茶

金貳圓五拾錢

糊綴糸燈心附木等

金壹圓五拾錢

繩及縛掛輪ノ直等

費兩書

金拾九圓

郵便料

金拾五圓

電信料

金拾八圓二拾錢

賄料

但小使宿直賄料

金九圓

雜費

但村中協議費

一金二千九百三圓

建築費

内譯

金千五百三拾二圓

各所新管

但銀塔作事小屋水源埋防非常吐水口石垣等

金千三百七拾壹圓

各所修繕

但風雨ノ節臨時機械等其他修繕費

一金五千五百四拾圓

機械費

内譯

金貳千六百圓

トルビン車買上

金貳千百三拾三圓六拾錢

紡績機械搭付

内

金百六拾五圓貳拾八錢 銀治職給

金五百七拾三圓七拾八錢 磨夫給

金四百三拾圓 据付夫給

金三拾圓 銀治炭

金九拾圓 鉄鉛硫黄等

金百拾二圓八拾錢 磨油

金貳拾七圓 鑄切輕石石礮等

金五百五拾四圓七拾四錢 機械搭付用水石

金百五拾圓 機械軸真差車五代

金八百六十四拾錢

附屬品買上

内

金拾七圓

撈

金五拾圓

西洋雜糖

金貳拾圓

口トル掛臺

金貳百圓

帶草

金三百八拾四圓

総繰桿

金貳拾四圓

総掛臺

金四拾圓

総メ莖

金三拾五圓

轆轤卷茶草

金六圓

右同用羅紗

金三拾圓四拾錢

竹籠新製

合計金九千八百五拾八圓

十二月 機械臺据付并軸心受梁取付落成

○十四年三月一日 駝螺水車ノ運轉ヲ試ム一モ支障ナシ

四月 本所ヲ農商務省工務局ノ管轄トス

同月十八日 土木建築ノ諸工事悉皆整頓ニ至ラス水路

筋竹草ノ根未ク蕃敷セサル内連日降雨ニ破損ヲ来セ

セシヲ以テ修繕ヲ加ヘ且堰堤及吐水口伏越樋等新設

ノ議ヲ事務取扱岡田令高ヨリ呈出シ翌月決議ヲ得タ

リ費用千八百五十七圓八十四錢八厘ニテ翌年二月落

成ス

五月六日 大平村野川洪水平水ニ登ル一丈許水源ノ

石垣ヲ崩ス一七十間岡ノ水門ヨリ水抜ケ川傍ノ藁ヲ

流上スル一帯段五畝餘其他小破損少ナラス

七月 農商務省五等屬岡田令高ヲ本所長心得トシ同所

ノ會計主務ヲ命シ同所ニ在勤ヤシム

八月一日 水堰ノ修繕ト分通落成ノ処昼頃ヨリ降雨甚シク二日ノ朝ニ至リ大平川セ尺餘ノ出水トナリ修繕中ノ堰二分通破損シ堰下長延三十間幅三間深平均六尺ノ堰込トナリ此上再度出水スレハ殆ト流失ヲ免レナルノ有様トナルニ付破損ノ場処ハ速ニ修繕ヲ加ヘ深堀ノ場処ハ沈積ヲ以テ川底ヲ堅メ其上ニ蛇籠ヲ伏セ更ニ從來堰敷四間ノ処ヲ今三間増シテ七間ト為シ、レハ永存ノ目的ヲカルヘシト云

九月十三日 午前ヨリ雨ヲ催フシ午後六時東南風起リ雨モ隨テ劇シク十時ニ至リ風雨共ニ猛ヲ加ヘ翌十四日午前一時愈太甚ク大平村ノミニテ潰家二十戸ニ及ビ三時河水ノ暴漲スルヲ九尺五時風西ニ轉シ雨モ歇

ミタリ然ルニ場中幸ニ甚キ損處ナク堰外蛇籠詰ノ石処々流失堰際丸山村地積ノ新築堤防過半破損シ堰尻取付半耕石羽取付ノ処少々破損シ水路筋ハ水源ノ石垣従前ノ分約ノ九間程潰崩セシノミ

同月 水害ハ隻水害ヲ受テ修繕費ヲ要スルヲ多キヲ以テ十四年度ニ於テ興業費千九百二十五圓五十六錢ヲ支出ス

同月西長ノ権限ヲ定ム曰ク

其西長ニ権限ヲ附與スル左ノ如シ

第一條 原綿買入及ヒ結綿絲賣捌ノ事

第二條 事務ノ緩急ニヨリ諸職工ヲ増減シ若ハ其給

料ヲ増減スルヲ

第三條 諸職工ノ勤惰ヲ勸懲スルヲメ金貳圓ヨリ多

農務監督

カラナル慰勞金ヲ與ヘ或ハ給料ヲ減シ若ハ致免スル

第四條 營業費金五拾圓ニ過キサル賞額ヲ以テ諸建物

ノ修繕及所中要需ノ物品ヲ買辦シ或ハ器械ノ致免ヲ
補ヒ又ハ之ヲ修覆スル

第五條 工業中負傷者タルハ成規ニ據リ手當ヲ與フ

第六條 所中事務ノ分科擔當吏員ノ係督ヲ志ス

第七條 在勤官吏及職工等ヲ公事ニ付地方へ出張セシ

第八條 所中ノ事務上ニ於テ地方勸業課及々同分課中

ニ往復シテ辨スヘキモノハ所長ノ名ヲ以テ文書往復

スル

第九條 所中一切ノ費用ハ簿冊ニ登錄シ所長檢印ヲナ

ス

第十條 各地結績所設置人ヨリノ依頼ニ應シ自費生徒

ヲ引受テ現業傳習セシムル

第十一條 所中ニ於テ實驗シタル該業必用ノ事項アラ

ハ之ヲ本局及々各地結績所設置人へ報告スル

十二月 工事竣功シ機械ノ運轉ヲ始ム

同月 所長權限ヲ更正ス

第一條 原綿買入及々紡綿絲賣捌ノ事

第二條 事務ノ緩急ニ憑リ諸職工ヲ増減シ若ハ其給

料ヲ増減スル

第三條 諸職工ノ勤惰ヲ勸懲スル為メ金貳圓ヨリ多

カラナル慰勞金ヲ與ヘ或ハ給料ヲ減シ若ハ致免ス

農務局

第四條 營業費金五拾圓ニ過キサル額ヲ以テ諸建物修繕及所中要需ノ物品ヲ買辦シ或ハ器械ノ缺乏ヲ補ヒ又ハ之ヲ修覆スルヲ

第五條 所中事務ノ分科担当吏員ノ係替ヲ為スヲ

第六條 在勤官吏及職工等定式ノ公事ニ付地方へ出張セシムルヲ

但執行ノ後直ニ可届出事

第七條 所中ノ事務上ニ於テ地方勸業課及同分課中

へ往復シテ辦スヘキモノハ所長ノ名ヲ以テ支書往復スルヲ

復スルヲ

第八條 各地結績所設置人ヨリノ依頼ニ應ニ自費生徒ヲ引受テ現業傳習セシムルヲ

第九條 所中ニ於テ実験シタル該業必用ノ事項アラハ之ヲ本局及所中各地結績所設置人へ報告スルヲ

第十條 總テ會計ニ関スル事ハ會計主務官吏へ協議スヘキ事

◎十五年三月 所長権限ニ更ニ第四條但書ヲ加ヘ第六

七條ヲ更正スルヲ左ノ如シ

第四條 營業費金云々

但外國品購買ノ儀ハ別ニ規則アルヲ以テ本条ノ限ニアラス

第六條 定式ノ公事ニ付ノ下ハ愛知縣管内若ハ其近隣ノ子ニ字ヲ加ヘ地方ノニ字ヲ删除ス

第七條 地方勸業課及同分課ハノ下對シ所長ノ名ヲ以テ支書往復スルヲト改ム

同月本所製糸改良後始メテ名古屋地方ニ試ミシニ拾二
 番総糸百斤ニ付六拾四圓ノ價ヲ得タリ
 四月 本所工條假規則ヲ定ムルノ左ノ如シ

愛知紡績所工場假規則

第一條 工業ニ関スル一切ノ車輛ハ押官負ノ差圖ヲ
 受クヘキ事

第二條 就業時間ハ一日十時間ヲ定メトシ業務始終
 ノ刻限ハ事務所ニ於テ臨時告示スヘキ事

但此時間外ニ食事等ノ為メ事務所ニ於テ適宜時
 間ヲ定メ休業セシムヘキ事

第三條 毎朝出場ノ時ハ事務所ニ到リ銘々ノ名札ヲ
 箱ノ中ニ差入置退場ノ時再々受取リ持帰ルヘキ事
 但名札ハ兼テ事務所ヨリ相渡スニ付若シ破損紛失

等ノハハ保証人連名ニシテ額出更ニ受取可申事

第四條 毎朝始業刻限ヨリ二十分前迄ニ出場ニ相圖
 ヲ期トシテ各其業ニ就クヘキ事

第五條 毎日終業後ニ機械運轉ヲ止メ場所内ノ掃除
 諸品ノ取片付ヲナシ相圖ヲ俟テ退場スヘキ事

第六條 技男女工男女等級及ヒ給料ハ左ノ通相定メ
 毎月兩次ニ相渡スヘキ事

技男

等級	一 等	二 等	三 等
日給	七拾五錢	六拾錢	五拾錢

工男

等級	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等
日給	四拾錢	三拾五錢	三拾錢	二十六錢	二十四錢	二十二錢

等級	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等
日給	二十錢	十八錢	十六錢	十四錢	十二錢	十錢
等級	十三等	十四等	十五等	平均全費拾七錢四厘四毛四		
日給	九錢	八錢	七錢			
技 女						
等級	一等	二等	三等	三	等	
日給	五十錢	四十錢	三十錢	三	十二錢	
工 女						
等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等
日給	二十五錢	二十錢	十八錢	十六錢	十五錢	十四錢
等級	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等
日給	十三錢	十二錢	十一錢	十錢	九錢	八錢
等級	十三等	十四等	十五等	平均全費拾七錢貳厘七毛七		

日給 七 錢 六 錢 五 錢

第七條 病氣又ハ不得止事故アリ保證人連名ニテ願
出許可ヲ得テ遲参早帰スルモノハ日給高ヲ十時ニ
割リ其時間ニ乘シテ支給スヘキ事

但臨時急病等非常ノ場合ヲ除キ通常ノ遅参ハ午
后始業以前ニ限リ早帰ハ午前終業以後ニ限ルヘ
キ事

第八條 前條ノ場合ニ依リ不参スル者ハ午前九時迄
ニ届出ヘシ若シ不参三日ヲ過クルハ更ニ其旨ヲ
届出病氣ハ医師ノ診断各ヲ添フヘキ事

但届書差出スト雖モ二週間ヲ過クルハ都合ニ
依リ致免スルヲナラヘキ事

第九條 無届ニテ遅参スルモノハ日給高ヲ十時ニ割

リ之ニ三割ヲ加ヘ其時間ニ乗シテ減給スヘシ尤モ
午後始業以後ニ及テ出場スルモノハ其日ノ入場ヲ
差許スヘカテサレ事

第十條 無届ニテ不参スル者ハ其日數ニ依リ一週日
ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル間現級ノ一等
ヲ引下テ最下等ノモノハ日給ノ待割ヲ減スヘシ若
シ無届不参一週日ヲ過クル者ハ等級辭令書ヲ取揚
ケ致免スヘキ事

第十一條 定式ノ休暇日ハ勿論臨時休業ノ日トイヘ
凡前日ヨリ違置タルハ無給タル可ク但當所ノ都
合ニ依リ當朝差掛リ休業スルノ場合ニ於テ例刻出
場スル者ハ日給ノ半額ヲ給ス可キ事

第十二條 工業ノ都合ニ依リ定規就業時間外ニ勞役
セシムル者ハ日給ヲ十時ニ割之ニ三割ヲ加ヘ其
時間ニ乗シテ給シ午後十二時ヲ過ルハ一倍ヲ加
ヘテ給スヘキ事

第十三條 日々無懈怠勉勵シ夜働優等ノ者及ヒ三ヶ
月間以上皆勤ノ者ハ臨時昇等又ハ褒賞可有之事
第十四條 年中休暇左ノ通タルヘキ事

大 祭 日

日 曜 日
十二月廿九日ヨリ
一月三日マテ

但工業ノ都合ニ依テハ此休暇日ニモ休業セサル
トアルヘキ事

第十五條 毎土曜日ハ午後三時ニ機械運轉ヲ止メ機
械掃除可致事

第十六條 年中二度機械全部ノ大掃除可致事

第十七條 工男女中誠實ニシテ伎倆優等ノ者ヲ撰ビ

機械部取締ヲ申付其部内ヲ監督セシムヘキ事

第十八條 機械其他ノ物品ヲ損傷シ或ハ物品ヲ紛失

スル者ハ其損害ト場合トノ輕重ニ依リ日給四分ノ

一ヨリ二分ノ一マテヲ二週間以内減スヘシ若シ其

所為故意ニ出ルモノハ本人并ニ保証人ヨリ償ハシ

ムヘキ事

第十九條 場中使役スル者其職事ノタメニ受傷ヲ受

ルハアレハ其輕重ニ依リ療養料或ハ扶助料ヲ給シ

夫ニ至ル者ハ埋葬料并ニ遺族扶助料ヲ給スヘキ事

第二十條 食堂外ニ於テ食事并ニ吸烟堅ク不相成事

第二十一條 未訪者アルキハ掛官員ノ許可ヲ得テ食

堂ニ於テ應對スヘキ事

第二十二條 場内ニ於テ猥褻ノ所業等アル者ハ及免ス

ヘキ事

第二十三條 場内ニ於テ喧嘩口論イタシ又ハ規則ヲ犯

シ或ハ不平ヲ唱テ他人ヲ誘道スル等ノ惡業等有之

ニ於テハ其輕重ヲ取亂シ日給四分ノ一ヨリ二分ノ

一マテヲ二週間以内減給シ又ハ一月以内現級ノ

一等ヲ引下ケ最下等ノモノハ日給ノ壹割ヲ減シ或

ハ及免スルヘキ事

第二十四條 技工中工場ノ業務ヲ妨クル者アレハ之ニ

ノリ注シタル損失ヲ計算シ本人并ニ保証人ヨリ償

ハシムヘキ事

第二十五條 事故アリテ退業セント欲スル者ハ保証人

連印ヲ以テ届出ヘキ事

第廿六條 旅行スルモノハ其出向先及ヒ往復滞留ノ日数ヲ預定シ願出ノ上許可ヲ受ケテ後出發スヘキ事

但休業中ニ往復スルモノハ此限ニテラス

第廿七條 工男女志願ノ者ハ別紙書式ニ依リ本籍宿所姓名年齢ヲ記シ保証人相立可申出事

但年齢ハ十五歳以上五十歳以下ヲ定限トスト雖

十五歳未満ノ者其区内學務委員ノ公証ヲ經テ

願出ルキハ時宜ニヨリ採用スルコトアル可シ保証

人ハ成ヘク近傍ノ者ニテ身元健ナル者ニ限ルヘ

キ事

第廿八條 工男女志願ノ者ハ一週間試験ノ上見込ヲ

ル者ハ相當ノ等級ニ採用イタスヘシ尤モ試験中ト

雖モ男ハ工男女ハ工女ノ最下給ヲ與ヘキ事

但伎倆優等ノ者ハ試験ヲ用ヒス直ニ相當ノ等級

ニ採用スヘキ事

願書式

(用紙半紙界)

工男女志願書

私儀今般衙所工男女ト相成綿絲綿績事業ニ従事仕度候間御試験ノ上相當ノ等級ニ御採用被成下度尤モ御規則之儀ハ堅ク相守可申且當人病氣其他身分之儀ニ付テハ保証人ニテ引受一切御手数相掛間敷候此段保証人連名ヲ以テ奉願上候也

何有縣下何國何郡何村何番地

族籍何、誰子孫又身姉妹

明治十四年何月何日

本人 何ノ誰 印

何年何月何日生

何々

保証人 何ノ誰 印

愛知紡績所

御中

四月 本所為替方ヲ伊藤銀行ニ命シ左命書ヲ交付ス

命令書

愛知縣下尾張國名古屋區茶屋町三丁目三番地

伊藤銀行

右為替方ヲ命シ農商務省工務局愛知紡績所ノ金銭鑑

定及々納拂ヲ取扱ハシムルニ付右從事ノ手續ト出納

為換損失償還ノ規程ヲ命令スル左ノ如シ

第一條 為換方ハ愛知縣下尾張國名古屋區茶屋町三

丁目三番地本店ヲ根拠トナシ同縣下三河國額田郡

岡崎連尺町四十七番地支店ニ於テ當所ニ收納スヘ

キ金銭ノ鑑定及々他ヘ拂渡スヘキ金銭ノ取扱ヲナ

サシムルニ付誠實ニ之ヲ勤ムヘシ

第二條 當所ハ收納スル金銭ハ然テ為換方之詰所ニ

於テ真實鑑定ノ上之ヲ請取リ其實數事由及々納主

ノ姓名等ヲ記載ヤシ預リ切符ヲ納主ヘ渡ス納主ハ

此預切符ニ納証書ヲ添ヘ主務ノ係ヘ持參シ上納ノ

手續ヲナスヘシ而シテ為換方ハ甲乙ノ兩帳簿ヲ設

ケ置キ

甲 愛知紡績 西 金銭預け帳 乙 伊藤銀行 金銭預け帳
其金貨等ヲ兩帳簿、一様ニ登記ニ為換方証印ノ上
會計主務之ニ割印及係リ官貨押印ニ最前ノ切符ハ
為換方、下度シ甲ハ当野、領受シ乙ハ為換方、下
付ス、シ

第三條 當所ヨリ諸方へ渡金ハ兼テ當所ニ設ケアル
切符地紙ニ渡金ノ貨數并ニ其渡先ノ人名等ヲ記載
シ之ヲ受取人ニ渡ス受取人此切符ヲ持参スレハ為
換方ニ於テハ切符ヲ査閲シ直ニ現金ト交換ス、シ
而シテ此払金ハ為換方へ預ケ金ノ内ヲ當所へ受出
スモノナレハ是亦甲乙ノ二帳ヲ設ケ置キ
甲 愛知紡績 西 金銭受取帳 乙 伊藤銀行 金銭上納帳
其金貨等兩帳へ一様ニ登記ニ証印割印押印等總テ

前條ノ式ヲ了、當所ヨリ振出タル切符ヲ返納ス、
シ

但為換方ヨリ直ニ當所へ受出ス、モ此手續ニ從
フ、シ且本文ノ切符現金ト交換ノ上ハ其表面ニ
渡済ノ印ヲ捺シテ再々運用ヲ為ス、ハカラス

第四條 預ケ金ハ毎月兩度受拂ノ計簿ヲタミ預け帳
ト上納帳トヲ照査シ殘金ノ取調ヲナク、シ尤モ當
所ノ都合ニ依テハ臨時計算ヲナサシムル、アルハ
シ

但毎日預ケ金ノ種類内詳細ニ精算シ日計表ヲ
作り翌日當所へ差出ス、シ

第五條 毎月一兩度又ハ當所ノ都合ニ依テ臨時官貨ヲ派
出シテ預ケ金ニ關スル諸帳簿ノ記載ヲ出納ノ順序

及々金銭ノ在高等ヲ精査スヘキニ付諸帳簿其外各
種ノ貨幣内譯共ニ錯乱セサル様注意スヘシ

第六條 改濟金銭ノ内若シ實金或ハ不足金ナルハ
其實金不足金ハ為換方ニ於テ辨償スヘシ但其實金

不足金古金銀ナル時ハ明治七年九月第九十三号布
告日金銀貨幣價額表ニ照シ通貨ヲ以テ上納スヘシ

第七條 為換方ニ於テハ金銭取扱ノ事務ヲ先カニ擔
當調理スヘキ代理人ヲ撰ミ兼テ其著ノ印鑑并ニ金

銭出納ニ用ユル印影類及ヒ頭取役ノ引受帳ヲ差出
置ヘシ故ニ當所ニ於テハ其代理人ヲ信任シ金銭受

渡等ハ其印鑑ヲ証憑トナスヘシ万一其者預ケ金ヲ
引負其他不正ノ所為ヲモカ又ハ失錯等アレハ其責

ハ全ク本店ニ歸シ不足金ハ勿論右ヨリ生スル損失

ハ總テ本店ヨリ辨償スヘシ
但當所主務ノ官負其外出納ニ関スル印鑑ハ為換
方ヘ下付スヘシ

第八條 盜難又ハ水火難等アリテ預ケ金并ニ為換金
ヲ紛失スルモ總テ本店ノ請負サルヘシ

但非常ノ變災ニモテ防衛スヘキヲナル証アルハ
ハ此限ニアラス

第九條 當所預ケ金ニ對シ抵當トシテ公債証書ヲ成
規ノ手續ヲ經テ差出シ置クヘシ

第十條 預ケ金ハ常ニ壹万円ヲ以テ極度トス故ニ前
條ニ據リ右同額ノ抵當品ヲ明細書ヲ添ヘ當所ヘ差

出シ置クヘシ然レ此預金極度ヨリ増減スルハ抵
當品モ亦隨テ増減スヘシ

但預金控度ヨリ増加シ増抵當品差出シ難キハ

其増加ノ金貨一時當所ハ引揚ヘシ

第十一條 預金ハ為換方ニ於テ自己ニ融通運用スル
ヲ許サズ若シ之ニ違背スルヲアレハ律ニ照シテ處分
スハシ

第十二條 為換方ニ於テ若シ預金ヲ引負スルヲアルハ
ハ差ラ差出シ置キタル抵當品ヲ差押ヘ連ニ解償ノ手
續ヲナサシムルハ勿論其引負ヨリ生スル損分トモ悉
皆解償セシムヘシ

第十三條 為換方ニ於テハ金錢受拂ノ取扱ヒ并ニ預金
金為換金ノ保險ヲナサシムル為メ手数料及保險料ト
シテ毎年金百圓六月十二月兩度ニ下付スヘシ且當所
ハ出頭セシムル手代ノ給料等別段給與セナルヘシ

但本文下付金ハ命令書交付及解令トモ其當月ハ
月割ヲ以テ現日數ニ割合給スベシ

第十四條 各地方ニ為換ヲ命シタルハ無期限ノ分ハ
為替切符該地ニ到達後三日限リ相納ムヘシ右手
料ハ有期限無期限共一ト口金五拾圓未満ハ下渡サ
ズ五拾圓以上百圓未満ハ遠近ニ拘ハラズ金壹錢ヲ
下渡スヘシ又一ト口滿百圓以上ハ百圓ニ付十里毎
ニ金貳錢ヲ下渡スヘシ又一ト口滿百圓ヲレハ増手
數料トシテ里程ニ拘ハラズ金貳錢其以上五拾圓毎
ニ金壹錢ヲ増シ毎年六月十二月ニ拂渡スヘシ
但本文為換金平常預金ノ外別段下渡條節ハ更
ニ抵當品ヲ差出スヘシ若シ抵當品差出シ難キハ
ハ當所ノ都合ニ寄便宜ノ處分ヲナスベシ

第ニ五條 此命令ハ本年六月限トス満期ニ致レハ預

金ノ決算ヲ為シ有餘ノ金ハ悉皆上納スヘシ

但期限中ト雖モ若シ事故ヲ生レハ何時ニテモ命

令ヲ解キ預ケ金ノ決算ヲ為サシムヘシ

前條々堅ク遵守可致候

右農商務卿ノ命令ヲ以テ此段命令ニ及候事

愛知紡績所會計主務

午月 日

農商務四等属岡田令高印

今般御所為換方被仰付前書御下命ノ趣逐一奉畏候就
テハ手代末々ニ致ル迄嚴重申付決テ違背仕間敷依テ
御請申上候也

伊藤銀行頭取

伊藤次郎左衛門印

愛知紡績所會計主務

農商務四等属岡田令高 殿

五月 本所水路堰際上流下流ニ連ナル民有荒地一段ニ

歩ヲ百十回五十錢ニ其竹木ヲ二十九回七十五錢ニ買

フ

七月 所長心得岡田令高建議シテ曰ク

凡ソ工業上至難ノ事ハ職工傭役ノ方法其宜ヲ得ルト

得サルトニ有之其方法中の切ノ関係ヲ有スルモノハ

勞銀ノ額其平ヲ得ルト得サルトニ有之若シ勞銀其度

ヲ超ユレハ常ニ營業者ノ損耗ヲ来シ得失相償ヲノ時

トナルヘク營業其度ヲ下シハ常ニ職工ノ流離ヲ促シ

安堵就業ノ時ナカルヘキナリ故ニ各營業者ニ於テハ
職工備役檢束ノ方法ヲ設ケサレハ動スレハ一二職工
ノ為メ牽制セラレ其影響ハ直ニ工業ノ盛衰ヲ左右シ
終ニハ業務壞敗ノ基ヲナス一古今内外其例少シトセ
ス且ツ材料買入製品賣捌ヲ始メトシ業務須要ノ事項
ハ同業相約シテ規程ヲ定メ内ニシテハ一二同業者ノ
所為ニ依テ營業一般ノ障害ヲ生スルナク外ニシテ
ハ同業一致シテ他ノ制壓ヲ防クノ策ヲ立サレハ工業
ノ保續隆盛ヲ見ル難カルヘシ是レ歐米諸州ニ於テ
ハ同業相會シ業務施設ノ要項職工備役ノ方法等ヲ議
定シ彼此大不同ナキヲ務ムル所以ナリ其証例ニハ各
業皆年報ヲ互通シ勞銀其他ノ經跡ヲ印行シテ世ニ公
ニセシヲ以テ知ルヘシ今也本邦綿糸紡績ノ業漸ク興

リ民間之ヲ企圖スルモノ陸續輩出現ニ本局ヨリ機械
ヲ貸與シ克員ヲ派シテ獎勵セラルモノ其數少ナラス殖
産上誠ニ慶スヘキモノト可申歟之ヨリ曩キ愛知紡績
所ヲ創立セラレ竣功後モ猶本局ノ管轄ニ屬シ民設紡
績所ノ規程ヲモ五ツヘキノ地ニ立テリ令高不肖夙ニ
任ヲ諉以テ辱シ夙夜其責ヲ空ウマンナリ權ニ依リ思
フニ事ハ始メニ其宜ヲ制マサレハ慣行直ニ常習トナ
リ終ニ如何トモスヘカラサルニ至ルハ物ノ數ナレハ
此時ニ及テ適當ノ方法ヲ設ケスニハアルヘカラスト
故ニ第一期ハ愛知紡績所主唱トナリ大坂ニ於テ同業
者ノ會合ヲ催シ別紙ノ事項ヲ議題トナシ聯合約束ヲ
結ハシメ漸次紡績事業ノ鞏固隆盛ノ基ヲ立度ト存候
條前述同業者集會ノ旨趣及テ別紙聯合約束ノ議案電

覽ノ上御採可ラシニトテ伏テ希望致候也

綿糸紡績同業者聯合約束議案 (別紙)

第一項 綿糸紡績同業者ハ互ニ懇親ノ結ニ相協賛シ

該業ノ隆盛ヲ圖ルヘキ事

第二項 同業者ハ専ラ製糸ノ品位ヲ進ムルヲ務メ

次ニテ擬製濫造ヲナシテ需用者ノ信ヲ失シ機械製

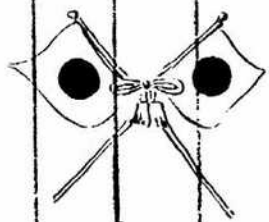
糸ノ聲價ヲ墮ス等態ニ同業者ノ障害ヲ起スヘキノ

所為アルベカラサル事

但賣捌目標標ハ互ニ類似ナキヲ要スト雖モ左條

形ノ聯合目標ハ同一ニ彫刻ニ商標ノ上部ニ押捺

ス可キ事



第三項 技男女工男女ノ等級及ヒ賃錢ヲ平等ニ定ム

バシ尤モ設置地ノ恭鄙或ハ他ノ職業等アルニ依テ

特ニ賃錢ノ増減ヲ要スル部カハ其地方ニ限リ別ニ

賃錢ノ定ムバシト雖モ其事由ヲ同業者ニ報告スベキ事

第四項 技男女工男女ヲ使役スルニハ等級辭令書ヲ

渡シ其昇降故免ニモ同様相渡スヘシ且終始正直勉

強セルモノニシテ自ラ解傭ヲ乞フモノハ是迄無故

解傭強セシ旨ノ保状ヲ付スヘキ事

但傭中規則ヲ犯ス歟或ハ懶惰等ニテ故免スルモ

ノハ蒸ヲ瘦シテハ辭令書ヲ取揚クヘキ事

第五項 技男女工男女自ラ備入ヲ乞フハ是迄ノ履

歷ヲ取亂シ其保狀辭令書ヲ所持スル者ハ直ニ前等

相當或ハ一二上下等ニ備入レ其保狀辭令書ナキハ

前備ノ紡績所ハ照會シテ後テ備否ヲ定ムベキ事

第六項 甲紡績所ニ於テ乙紡績所ノ技男女工男女ヲ

備入レントスルハ乙紡績所ノ承諾ヲ得テ之レヲ

為マヘク又技男女工男女ノ請願ニ依リ丙ヨリ丁ハ

移ラントスルハ互ニ照會シテ後備免スベキ事

第七項 現今企圖ノ紡績所ハ其着手ノ前後

ニ依リ開業ノ遅速ヲレハ既成ノ紡績所ハ(現

管業スルモノハ勿論建設着手中)未成紡績

所(未着手ノ者)ヨリ依頼ニ應自費

生徒及ヒ工男女ヲ引受ケ機械ノ組立及ヒ製糸ノ実
業ヲモ傳習セシムヘキ事

第八項 原綿ハ日本綿ヲ用フルハ論ナシト雖モ綿價

非常ニ騰貴スル歟其他已ムヲ得ナル場合ニ於テハ

協同シテ一時外國綿ヲ用フルヲアルヘシ若シ各自

一個ノ都合ニ依リ外國綿ヲ用フルハ直ニ共旨ヲ

聯合ノ各所へ報告スベキ事

但聯合若クハ各自一己ノ都合ニ依リテ外國綿ヲ

用フルハ全用或ハ幾分雜用ノ標印ヲ賣捌目標

標ノ傍ニ明記シ日本綿全用トノ區別ヲナスベキ

第九項 製糸ノ販路ハ各地異同アルベシト雖モ互ニ

其方向ヲ報告シ若シ同業一般ノ販路ニ妨害ヲ生ス

ルハハ協議ノ上新ニ他ノ販路ヲ求メ或ハ権リニ貯蓄法ヲ設クル等臨機適當ノ處分ヲ為シ聯合耐忍ノ力ヲ以テ其妨害ヲ制スルヲ務ムベキ事

第十項 製糸ハ十二卷西洋紙ナレハヲ以テ中央トシ西洋紙ナレハヲ以テ中央トシ

シ毎月一日翌日休販ナレハ時ノ相場ヲ互ニ報告スヘシ

若シ相場系百斤ニ付金壹圓以上ノ乱高下アルハ互ニ電信ヲ以テ高況ヲ報スベキ事

但原綿製糸賣買ハ各自ノ都合ニ依ルヘシト雖モ相場外非常ノ高下ヲ以テ賣買シ同業者ニ影響ヲ及等ノ所業ハ堅ク禁止スベキ事

第十一項 機械運用上ニ於テ或ハ糸質ヲ上好ニシ又ハ製造高ヲ増加シ若クハ落綿散失綿及ヒ屑糸等ヲ減少スル等ノ發明并學說ヲ實驗スルハ互ニ報告

シニ長ヲ取り短ヲ補フヘキ事

第十二項 聯合紡績所ハ毎月実行セシ景況ヲ別紙甲号ノ表式ニ準シ翌月三日迄ニ郵發工務局愛知紡績所へ送付スヘシ同紡績所ハ各所及ヒ所屬製糸別紙乙号表式ノ如ク編製シ一通ハ工務局へ一通ツハ各地紡績所へ配賦スベキ事

但報告用罫紙ハ愛知紡績所ニテ印行シ豫メ各所へ配賦スヘキ事

第十三項 前項聯合約束ノ旨意ニ背キ同業者ノ不利ヲ醸スモノハ衆議ノ上同盟中ヨリ致斥シ聯合目標ヲ取揚々業務ノ支通ヲ謝絶スヘキ事

第十四項 當聯合ハ定期集會ヲ要セスト雖モ第八項第九項ノ場合又ハ其他ノ場合ニ於テ全盟業所以上ノ

同意ニ依リテハ乃チ發議者トナリ臨時集會ヲ催ス
 一ツ得ヘキ事
 第十五項 聯合約束議定ノ上ハ一通ハ工務局ニ差出
 一通ハハ各呼ニ所持スヘキ事

別紙 甲号

明治十年 月 營業實況

現營業日數	日
就業時間	一日
現從工男	人
現從工女	人
製糸高	平均一日 斤
繰綿需用高	平均一日 斤
上男給	平均一人金
工女給	平均一人金
繰綿	平均百斤代金
製糸	平均百斤代金

右之通

明治十年 月 日

工務局 愛知紡績所
 御 中

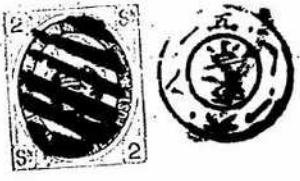
多々商標者ヲ移向
 山野行毎敷
 首々毎毎敷

此建議採用セラル

八月四日 早天ヨリ東風午後雨トナリ撤衣歇マヌ翌五
 日ニ同様ノ天氣ニテ風力雨勢漸々強ク午後六時ヨリ
 大風雨トナリ七時頃大手川満水水源ノ藪ヨリ川水押
 込水路ハ乗越ヌヲ以テ之防禦ス六日風ハ少シク鎮靜

スト雖雨ハ猶剥シク水ノ橋上ニ及リ八九寸道路ハ
 四五尺ノ処アリ水路筋損処數ナラス石垣ノ崩壊三
 十九間土羽ノ破損十六間同崩込二十九間堤防ノ崩
 込四間悪水吐樋破損ニヶ所ニ至レリ九月ノ末水堰ノ
 修築落成セシカハ水路ハ修繕ニ及ハスシテ十月一日
 再ヒ洪水ニ罹レリ

九月二十九日ヨリ雨降續キ十月一日午後一時ヨリ少シ
 ク西風ヲ帯ビ雨ハ益々暴勢ヲ加フルヲ以テ午後三時機
 械ノ運轉ヲ停メ水源及第一水門吐水路水門共ニ皆鎖
 シ防水ノ準備ヲ為ス此時河水早水ヨリ高キ約ソ四
 五尺午後雨愈強ク河水頗ニ一丈餘ニ及リ水源ニ水門
 盡ク破損シ丸山村水車屋流失ス依テ第一水門ヲ防禦
 スレバ水門側ヨリ逆境ニ水路ニ端夫ヨリ下流ノ水路



此建議採用セラル
八月四日 早天ヨリ東風午後雨トナリ撤衣歌々五
日モ同様ノ天氣ニテ風力雨勢漸々強ク午後六時ヨリ
大風雨トナリ七時頃大手川満水水源ノ藪ヨリ川水押
込水路ハ乗越エテ以テ之防禦ス六日風ハ少シク鎮静

此建議採用セラル

八月四日 早天ヨリ東風午後雨トナリ撤衣歌々五
日モ同様ノ天氣ニテ風力雨勢漸々強ク午後六時ヨリ
大風雨トナリ七時頃大手川満水水源ノ藪ヨリ川水押
込水路ハ乗越エテ以テ之防禦ス六日風ハ少シク鎮静

スト雖雨ハ猶剥シク水ノ橋上ニ及リ一八九寸道路ハ
四五尺ノ処アリ水路筋損処數ナラス石垣ノ崩壊三
十九間土羽ノ破損十六間同崩込二十九間堤防ノ崩
込四間悪水吐樋破損ニヶ所ニ至レリ九月ノ末水堰ノ
修築落成セシカハ水路ハ修繕ニ及ハスシテ十月一日
再ヒ拱水ニ罹レリ

九月二十九日ヨリ雨降續キ十月一日午後一時ヨリ少シ
ク西風ヲ帯ビ雨ハ益々暴勢ヲ加フルヲ以テ午後三時機
械ノ運轉ヲ停メ水源及第一水門吐水路水門共ニ皆鎖
シ防水ノ準備ヲ為ス此時河水早水ヨリ高キ一約ソ四
五尺午後雨愈強ク河水頭ニ一丈餘ニ及ビ水源ニ水門
盡ク破損シ丸山村水車屋流失ス依テ第二水門ヲ防禦
スレバ水門側ヨリ逆境ニ水路矣端夫ヨリ下流ノ水路

筋モ必々ノ堤防ヲ壊レリ此ヨリ先大平村大堤防上ニ
水溢レ遂ニ堤ヲ壊リ人家三戸流失長屋四戸墜壊セラ
ル其水直ニ機械部裏ノ石垣ヲ衝突シ折綿機部ノ裏及
上拾水ノ向尖形ノ場所各三間ノ石垣ヲ流壊シ機械所
ノ傾頽ヤントスル勢ナルヲ以テ防禦ノ術ヲ尽シ幸ニ
危殆ヲ免カレタリ其他大平橋及其近傍人家二戸流失
又大平村岡崎附ノ人家モ三戸流失シ二人ノ溺死アリ
實ニ近年未曾有ノ大水タリ尔後追々減水ニ付堰ヲ檢
スルニ筏口以北ハ只上蛇籠ヲ流セシノミナレバ以南
ハ中心ノ蛇籠ヲモ多ク失々唯基礎ノ存スルヲ不幸中
ノ幸トスルノミ其他水源水門際切込堰際丸山村水邊
堤防并水路筋切込ニ字由ノ木水門破損事清水石垣堤
防切込字百上伏越堰破損其他処々ノ小破損少ナカラ

ス脩繕約三十日ナルハシ其間工男女ニ半給ヲ與ヘ日
々出頭シテ機械部ノ掃除等ヲ為サシム

十月十五日所長心得岡田令高ヨリ紹介シテ綿糸紡績管
業者ヲ大取ニ會シ左ノ聯合約束ヲ議定ス

綿糸紡績同業者聯合約束

第一項 綿糸紡績同業者ハ互ニ懇親ヲ結ビ相協戮シ
テ該業ノ隆盛ヲ図ルヘキ事
第二項 全業者ハ専ラ製糸ノ品位ヲ進ムルヲ務メ
決シテ粗製濫造ヲナシテ需用者ノ信ヲ失ハシ機械製
糸ノ聲價ヲ墮ス等総テ全業者ノ障害ヲ起スヘキノ
所為アルバカシサル事

但賣捌目標 標高ハ互ニ類似ナキヲ要スト虽ハ左ノ
雛形ノ聯合目標ハ全一ニ彫刻シ其紡績所上等製

系商標ノ上部ニ押捺ス可キ事 (聯合目標圖畧ス)

第三項 工男女ノ等級及ヒ賃錢ハ設置地ノ都鄙或ハ他ノ職業等アルニ依リ増減アルヘシト雖モ其等級賃錢ハ聯合結績所ハ報告スヘキ事

但等級賃錢ヲ改正スル時モ報告スヘキ事

第四項 工男女ヲ使役スルニハ等級辭令書ヲ渡シ其昇降放免ニモ全様相渡スベシ且滿三年間終始正直勉強セルモノニテ自ラ解備ヲ乞フモノハ是迄無故障勉強セシ旨ノ保狀ヲ付スヘキ事

但傭中規則ヲ犯ス狀或ハ懶惰等ニテ放免スルモノハ蒸テ渡シアル辭令書ヲ取揚テ其首企盟中ハ報告スヘキ事

第五項 工男女自ラ傭入ヲ乞フ時ハ是迄ノ復歴ヲ取

亂シ其保狀辭令書ヲ所持スルハ試験ノ上適宜ニ傭入シ其保狀辭令書ヲキハ前雇ノ結績所ハ照會シテ後ニ傭否ヲ定ムヘキ事

但保狀辭令書ヲキモ復歴分明ノモノハ照會ヲ經スシテ直ニ雇入ルヘシ

第六項 甲結績所ニ於テ乙結績所ノ工男女ヲ傭入レシトスル時ハ乙結績所ノ承諾ヲ得テ之レヲ為スヘキ事

但結績所ト工男女ト豫約ヲ結ビ甲乙ハ轉セシムルヲ許サス

第七項 現今企圖ノ結績所ハ其着手ノ前後ニ依テ傭業ノ遲速アレハ既成ノ結績所 (現令營業スルモノハ勿論建設着手中ノモノモ云) ハ未成結績所 (未着手ノ) ヲリ依頼ニ應ジ自費

農商務省

生徒及び工男女ヲ引受テ機械ノ組立及び製糸ノ実業ヲモ傳習セシムヘキ事

第八項 原綿ハ日本綿ヲ用ユルハ論ナシト虽日本綿價非常ニ騰貴スル故其他已ムヲ得サル場合ニ於テハ聯合若クハ各自一己ノ都合ニ依リ支那綿ヲ用ル時ハ全用或ハ幾分難用ノ標印ヲ賣捌目標標高ノ傍ニ明記シ日本綿全用ト區別ヲナスヘシ而シテ月報中繰綿需用欄内ニ於テ支那綿需用高ヲ別記スヘキ事

但將來實驗ノ上支那綿製糸日本綿製糸ト其價格市場ニ於テ差異ヲ生セサルニ至ルハ或ハ中外ノ綿質製法ニ依リ優劣ナキヲ覓見スルニ至ラハ協議ノ上本項ヲ廢棄スルヲモアルヘシ

第九項 製糸ノ販路ハ各地異同アルヘシト雖且若シ

需用者結合シテ企業一般或ハ一地方ノ販路ニ妨害ヲ生スル時ハ協議ノ上適宜其妨害ヲ制スルヲ務ムヘキ事

第十項 原綿製糸賣買ハ各自ノ都合ニ依ルヘシト虽且相場外非常ノ高下ヲ以テ賣買シ企業者ニ影響ヲ及ス等ノ所業ハ堅ク禁止スヘキ事

但糸相場百斤ニ付金三四以上ノ亂高下アルハ互ニ電信ヲ以テ商況ヲ報スヘキ事

第十一項 機械運用上ニ於テ或ハ糸質ヲ上好ニシ又ハ製造高ヲ増加シ若クハ落綿散夫綿及び屑糸等ヲ減少スル等ノ發明并學說ヲ實驗スル時ハ發明績或ハ報告ニ愛知績或ヨリ聯合績或ハ報告スヘキ事

第十二項 聯合紡績所ハ毎月実行セシ景況ヲ別紙甲
号ノ表式ニ準シ翌月三日迄ニ郵發工務局愛知紡績
所へ送付スヘシ全紡績所ハ各所及々全所ノ月報表
ヲ別紙乙号表式ノ如ク編製シ一通ハ工務局へ一通
ツ、ハ各地紡績所へ配賦スヘキ事
但報告用罰紙ハ愛知紡績所ニテ印行シ豫々各所
ハ配賦スヘキ事

第十三項 聯合約束ノ旨意ニ背キ全業者ノ不利ヲ醸
スモノハ衆議ノ上同盟中ヨリ致斥シ聯合目標ヲ取
揚ケ業務ノ交通ヲ謝絶シ其事由ヲ新聞紙ニ廣告ス
ヘキ事

但東京大阪及其紡績所地方ノ新聞紙タルヘシ
第十四項 當聯合ハ毎年四月十五日ヲ以テ定期集會

ヲ開クヘシ尤第八項第九項又ハ其他ノ場合ニ於テ
全盟ニテ所以上ノ同意ニ依リテハ乃チ發議者トノ
ノ臨時集會ヲ催スルヲ得ヘキ事
但集會地ハ前會ニ於テ定ムヘキ事

第十五項 當聯合ハ理変者ノ姓名ヲ五ニ通知可致事
第十六項 聯合約束議定ノ上ハ一通ハ工務局へ差出
一通ツ、ハ各所ニ所持スヘキ事

第十七項 此聯合約束ハ明治十六年一月一日ヨリ發
施スヘキ事

明治十五年十月二十日

波谷紡績所

波谷虎之助代理

本川仁十郎 印

三重紡績所

伊藤傳一郎 印

玉島紡績所

難波二郎三郎 印

瀧本村紡績所

前川迪徳 印

堺川崎紡績所

川野正左衛門代理

坂上要助 印

十月三十日（延徳）水通三翌二日ヨリ営業ヲ始ム

柳本所ハ十四年三月ニ工場致成セシト雖數回ノ障碍
 ニ因リ營業ヲ為スル能ハス十二月ニ至リ機械始メテ
 其用ヲナスト雖器械手ノ不熟等ヨリ翌十五年一月ニ
 至ルマテ一日ノ製額僅ニ拾貫匁内外ニシテ三月ニ至
 ルニ猶二十貫匁以上ニ上ラス五月ニ至リ稍其額ヲ増
 加セシモ京綿騰貴製糸低落ノ厄運ニ際シ器械ニ損欠
 ヲ生スル等ノ困難アリテ十四年度中ハ業務上一モ好
 結果アルヲ見ス是レ創業ノ際亦止リ得サレ、坊碍ト
 云フハ、シテ爾後七月以降機械手漸ク習熟シ一日ノ製額
 當初ノ望二百斤即チ三十二ヲ達スルニ至リ十一月ニ
 及ビテハ既ニ二百五十斤四拾ニ上レリ故ニ十五年下
 半年度ノ如キハ製造其高ヲ加ハ収支相償セラ尚利益
 アルヤ疑ナシ而シテ其販路ル尾州知多郡ノ晒木綿

中島郡ノ綿木綿信州地方ノ足袋及綿木綿遠州地方ノ
 綿木綿等ニ用ラルニ在リ然レモ開業日猶淺ク需要者
 未タ其良否ヲ悉知スル少ナキヲ以テ販路猶狹隘ノ憾
 ナリト雖漸次歩ヲ進ムルヤ必然トナス元來機械力ニ
 頼リ工人ヲ役スル寡クシテ製品ヲ得ル多キニアルヲ
 以テ少額ヲ製シテ價格ノ貴ヲ保タシヨリハ寧ロ多量
 ヲ製出シテ價值ヲ低廉ニシ其販路ヲ弘ムルニ如クス
 此ヲ以テ今後勉メテ製品ノ増多ヲ計畫セシトス

興業費 五萬四千二百五圓

資本金 一萬七千九百拾壹圓

綿糸製造高 自十四年十二月
至十五年六月 二千五百七十三貫八百七拾匁

全原價 五千五百六十八圓五十六錢八匁

綿糸販賣高 自十五年二月
至同六月 二千二百七十五貫二百匁

全代價 七千九百八十三圓十五錢八匁

繰綿購入高 五千二百二十一貫九百九十五匁

全代價 一萬千八百六十六錢五匁

工男 十五年七月現賣 二十一人

工女 全上 五十一人

十四年度収支比較

營業收入高 六萬六千六百六十四圓三十九錢八匁

全 支出高 六萬四千二百二十三圓九十三錢六匁

差引損 三千四百五十八圓五十三錢五匁

繰綿ト糸トノ歩合ハ糸拾貫匁ヲ製マルニ一割ノ落綿
 二分ノ屑糸ハ分ノ散失綿ト見做シ拾二貫目ノ綿ヲ要
 ス故ニ十四年中ノ購買高ヲ掲ケ製糸需要ノ繰綿額ヲ

録セス

農務

○十六年二月 所長權限第六條ヲ更正スルノ左ノ如シ
第六條 事業上要務ノ為所長出京シ及ヒ所員以下ヲ
シテ各地へ出張セシムルノ

但判任官及本局備ハ執行ノ后直ニ可届出事

四月十五日 綿糸紡績同業聯合約束第十四項ニ據リ三
河國岡崎ニ於テ第二期會ヲ開キ議決セシ件々左ノ
如キ旨ヲ所長心得岡田令高ヨリ申出ス

綿糸紡績同業者聯合約束

第一項 綿糸紡績同業者互ニ懇親ヲ結ビ相儉戮シテ

該業ノ隆盛ヲ図ルハキ事

第二項 同業者ハ専ラ製糸ノ品位ヲ進ムルヲ務メ
決シテ粗製濫造ヲナシテ需用者ノ信ヲ失シ機械製
糸ノ聲價ヲ墮ス等然ラ同業者ノ障害ヲ起スハハノ

所為アルヘカラサル事

但賣捌目標標高ハ互ニ類似ナキヲ要スト雖モ左ノ
雛形ノ聯合目標ハ同一ニ彫刻シ其紡績所製糸高
標ノ上部ニ押捺ス可キ事 (聯合目標図畧ス)

第三項 工男大ヲ使役スルニハ辞令書ヲ渡シ其昇降
放免ニモ同様相渡スヘシ且滿三年間以上終始正直
勉強セルモノニテ自ラ解備ヲ乞フモノハハ是迄無
故障勉強セシ旨ノ保状ヲ付スヘキ事

但備中規則ヲ犯ス致或ハ懶惰等ニテ放免スルモ
ノハ其旨同盟中へ報告スヘキ事

第四項 工男女備入ヲ乞フキハ其履歷ヲ取調試驗ノ
上適宜備入ヲ得ルト虽モ前備紡績所ニ於テ停備ノ
照會ヲナスルハ其停備續スルヲ許サス

機務諸

第五項 中紡績所ニ於テ乙紡績所ノ工男女ヲ備入レ
ントスルハ乙紡績所ノ承諾ヲ得テ之ヲ為マヘキ
事

但紡績所ト工男女ト豫約ヲ結ビ甲乙ハ轉セシム
ルヲ許サズ

第六項 現今企圖ノ紡績所ハ其着手ノ前後ニ依テ開
業ノ遲速アレハ既成紡績所(現今營業スルモノハ勿
論建設着手中ヲモ云フ)
ハ未成紡績所(未着手ノモノ)ヨリ依頼ニ應シ自費生徒
及ビ工男女ヲ引受テ機械ノ組立及ビ製糸ノ実業ヲ
マ傳習セシムヘキ事

第七項 製糸ノ販路ハ各地異同アルハシト虽モ若シ
需用者結合シテ同業一般或ハ一地方販路ニ妨害ヲ
生スルハハ協議シ上適宜其妨害ヲ制スルヲ務ムハ

キ事

第八項 機械運用上ニ於テ或ハ素質ヨ上好ニシ又ハ
製造高ヲ増加シ若クハ落綿散失綿及ビ屑糸等ヲ減
少スル等ノ發明并學識ノ実験スルハハ愛知紡績所
ハ報告シ愛知紡績所ヨリ聯合紡績所ハ報告スヘキ事
但本文ノ場合ニ於テ他ノ聯合紡績所ニ公益ヲ與
フル時ハ相当ノ報酬ヲナスヘシ

第九項 聯合紡績所ハ毎月發行セシ景況ヲ別紙甲号
ノ表式ニ準シ翌月三日迄ニ郵發工務局愛知紡績所
ハ送付スヘシ同紡績所ハ各所及ビ同所ノ月報表ヲ
別紙乙号表式ノ如ク編製シ一通ハ工務局ハ一通ツ
ハ各地紡績所ハ配賦スヘキ事
但報告用罫紙ハ愛知紡績所ニ印行シ豫メ各所

ハ配賦スヘキ事

第十項 聯合約束ノ旨意ニ背キ同業者ノ不利ヲ醸ス
モノハ衆議ノ上同盟中ヨリ致存シ聯合目標ヲ取揚
ケ業務ノ交通ヲ謝絶シ其事由ヲ新聞紙ニ廣告スヘ
キ事

但東京大坂又其紡績所地方ノ新聞紙タルヘシ

第十一项 當聯合ハ毎年四月十五日ヲ以テ大坂ニ於
テ定期集會ヲ開クヘシ尤第七項又ハ其他ノ場合ニ
於テ全盟三ヶ所以上ノ同意ニ依リテハ乃チ發議者
トナリ臨時集會ヲ催スルヲ得ヘキ事

第十二項 定期集會ハ聯合者ハ必ズ出席スヘシ若シ
不得止事故アリ出席シタキモノハ委任状ヲ付シ
テ代人ヲ出シ決議ノ數ニ入シムヘキ事

第十三項 當聯合ハ理事者ノ姓名ヲ互ニ通知スヘキ
事

第十四項 聯合約束議定ノ上ハ一通ハ工務局ヘ差出一
通ツハ各所ニ所持スヘキ事

第十五項 此聯合約束ハ明治十六年一月十日ヨリ實
施スベキ事

明治十六年四月岡崎ニ於テ開キシ第二定期會修正

愛知紡績所

岡田令高 印

宮城紡績所

丹野敬一 印

堺川崎紡績所

阪上要助

明治十年

代印 沼野義也印

廣鳴紡績會社

奈波増次郎印

遠州紡績呀

佐藤宗一郎印

三重紡績呀

伊藤傳一郎印

愛知紡績會社

花井八郎左衛門印

下村紡績呀

高田年太郎印

岡山紡績呀

沼野義也印

別紙甲号

明治十年 月 營業實況

見營業

工務部

即

本

茶

金

木

目

指

目

工

金

工

金

工

金

別紙甲号

明治十年 月 營業實況

現營業日數

就業時間平均一日

現役工男

現役工女

管糸出来高

日番
西号

落綿出来高

屑糸出来高

繰綿需用高

石灰消費高

油消費高

工男給一日平均壹人

工女給一日平均壹人

紡績消費高

木綿網消費高

茶皮消費高

右之通

明治十年 月 日

工務局愛知紡績所

御中

表中特ニ平均一日或ハ一日平均一人トアルヲ除ノ外一月ノ
現數ヲ記スベシ

